イノベーションの創発に向けて

つながりを科学する
地域コミュニティブランド：SCB

(一社)SCBラボ所長・理事
イノベーションアカデミー校長

崇城大学情報学部教授
早稲田大学招聘研究員
P2P提唱者
工学博士　星合隆成

イノベーション創発に向けた取組

- イノベーティブな人材の育成
- イノベーションの学びの場 /教育プログラム(教材・メソッド)の提供
- 県外の地域資源とのつながりを醸成

- イノベーション創発のための理論である「SCB理論」を用いたイノベーション創発の推進＆教育プログラムの開発・考案
- 「SCB理論」の普及
  - ・世界初のP2Pである「ブローカレス理論(1998)」がベース
  - ・P2Pを地域活性化/イノベーション創発に活用したSCB理論(2011)

トピックス

・イノベーションとは？

・イノベーションの学びの場/教育プログラムとは？

・県外の地域資源との具体的な「つながり」について

・イノベーション創発のためのSCB理論とは？

・SCB理論の具体的な普及活動やプロジェクトについて

イノベーションとは？

新たな価値観の創出

疲弊した地域の救世主
（地域活性化・地域創生）

技術革新と新結合

技術革新とは

SDGs(持続可能な開発目標)

・産業と技術革新の基盤構築

超スマート社会

Society 5.0

実空間と仮想空間を
融合させた社会

インダストリー4.0

第4次
産業革命

IoT・AI・P2P
の発明

Society 4.0

情報社会

第3次
産業革命

自動化・コンピュータ
の発明

Society 3.0

工業社会

第2次
産業革命

電気の発明

Society 2.0

農耕社会

Society 1.0

狩猟社会

第1次
産業革命

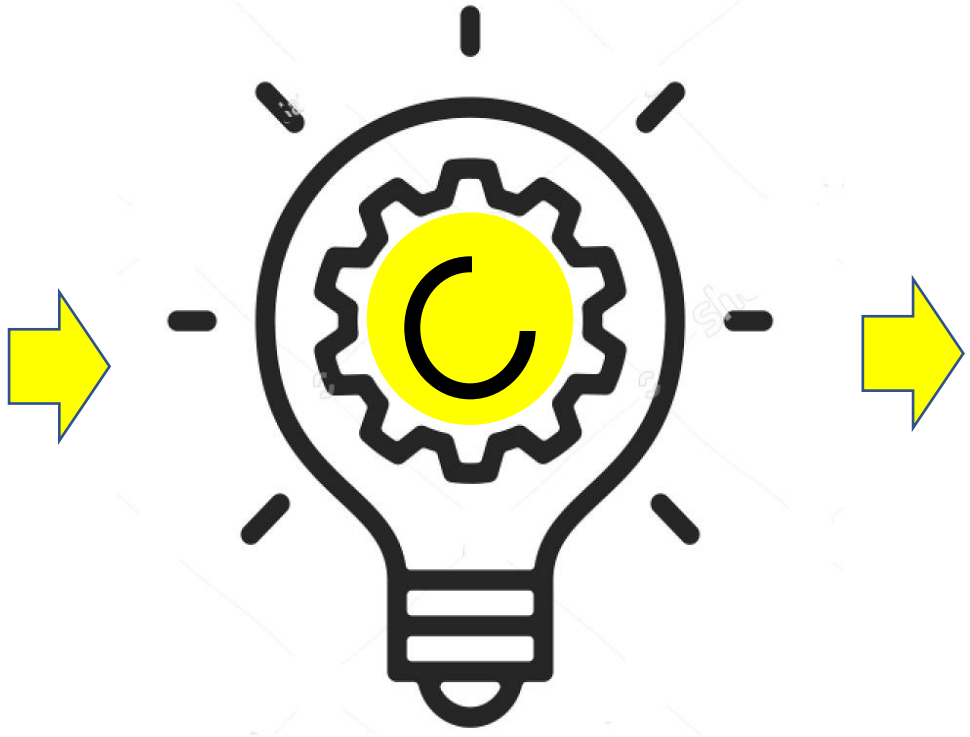
蒸気の発明

技術革新　第2次産業革命

・技術の進展により、新たな価値観を生み出すこと
・電気の発明により、新たな光源を得るとともに、冷却という新たな価値観を創出

第2次産業革命　電気の発明　新たな価値観の創出

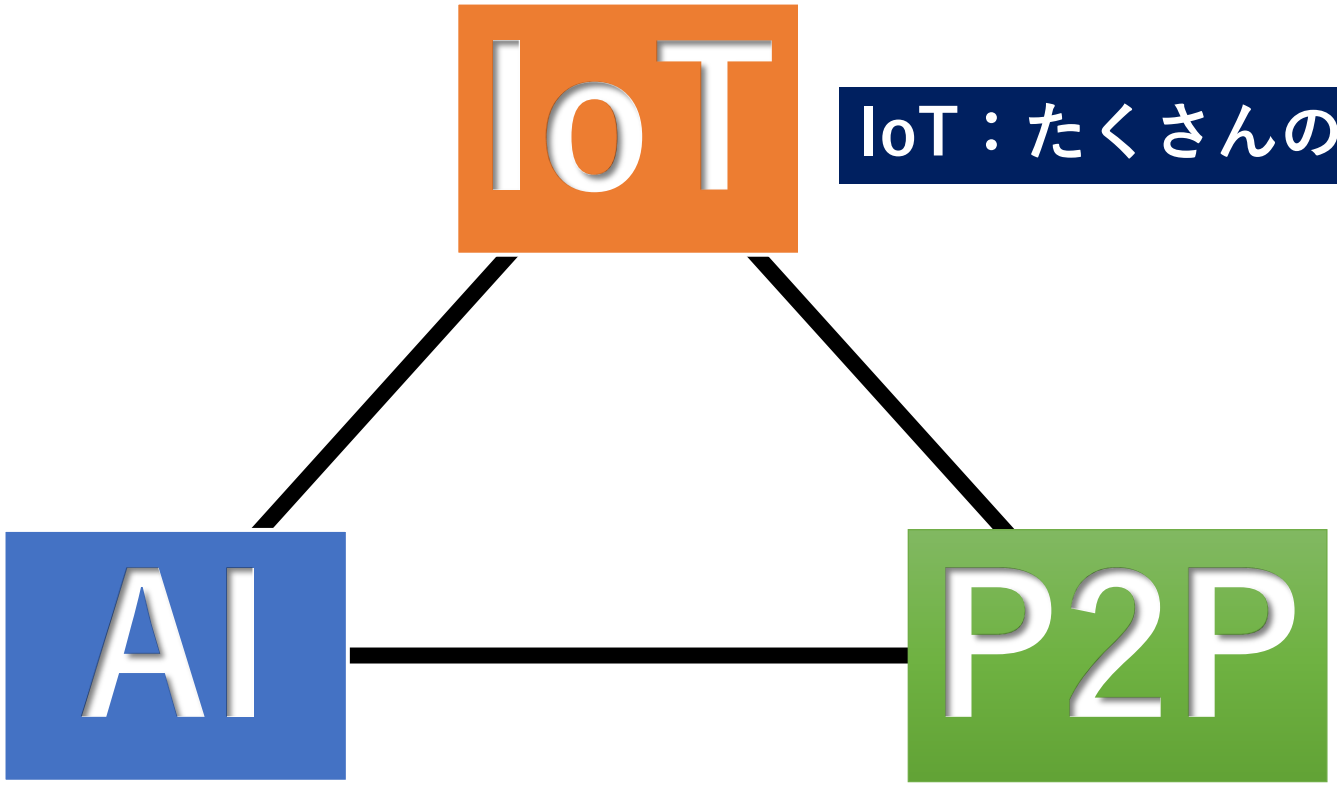
ろうそくの火



冷蔵庫

技術革新　第４次産業革命(Industry 4.0)

新たな価値観の創出



IoT：たくさんのデータを収集

AI：データを解析、意味づけ

P2P：たくさんのデータをつなげる

世界初のP2P「ブローカレス理論・SIONet(シオネット)」

NTT未来ねっと研究所　1998年～

NTT　情報通信用語集

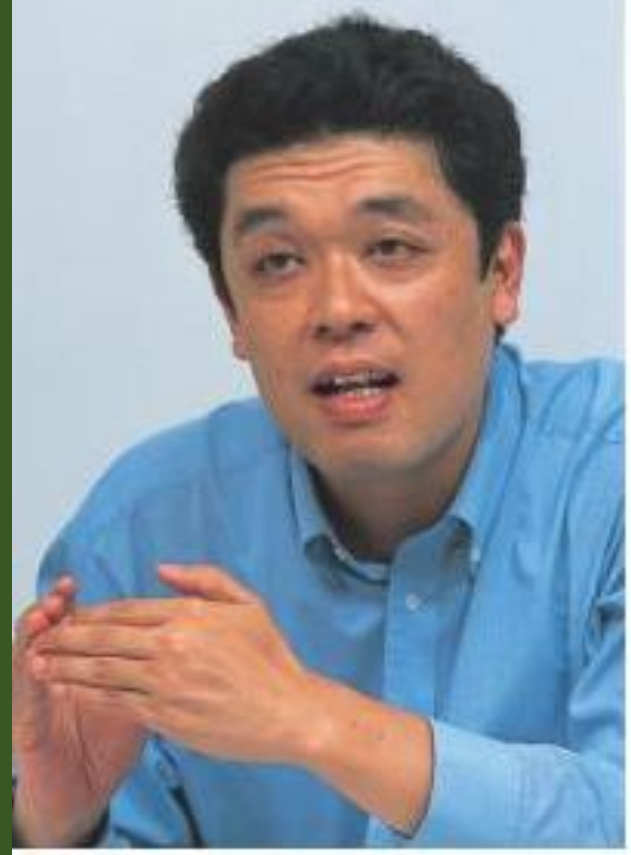
SIONet(シオネット)

Semantic Information-Oriented Network

ファイル交換に限ることなく，個人が主体となって自由で多彩な情報送受をサポートするサービス，企業向け共同作業支援サービス，分散コンピューティング等，多彩なP2Pサービスに適用可能な技術。世界初のP2Pテクノロジの1つであり，1998年に開発された。**自律分散協調型**

（非中央集権的・自律的にたくさんの情報をつなげる技術）

P2P提唱者



主役登場

P2Pコミュニティ開花！

星合　隆成
NTTネットワークサービスシステム研究所
主幹研究員

必要以上に管理されない，自由・平等・対等で，自律的なネットワーク社会を構築したい．これが1998年にブローカレスモデルを提唱したそもそもの動機でした．またブローカレスモデルに基づいて構築されるネットワークコミュニティを「Order-Taking Cyber Society（御用聞き社会）」と名づけました．これは，ネットワーク上の動作実体の嗜好・価値観・動作環境・状況等のさまざまな属性に従って，互いにふさわしい相手とコラボレーション可能なネットワーク上の仮想社会を，ブローカレスモデルに基づいて構築することをねらいとしています．

技術として，これまでにない斬新で革新的な要素技術が随所に盛り込まれています．また我々はSIONetを次世代ネットワークOSとして位置づけています．つまり，これまでの単なる2者間の直接通信機構を備えたネットワークOSから，自己組織化・自律分散協調が可能なネットワークOSへと飛躍するための，つまり次世代ネットワークOSとして進むべき1つの方向性をSIONetが示しています．またSIONetの特徴的な原理のいくつかは，他のP2Pプラットフォームにおいても採用されており，汎用的なP2P技術やネットワークOS技術としてもSIONetは役立つもの

ブローカレス理論の特許取得 ４６件（p.276）

(12) **United States Patent**
Hoshiai et al.

(10) **Patent No.: US 7,702,744 B2**
(45) **Date of Patent: Apr. 20, 2010**

(54) **SEMANTIC INFORMATION NETWORK (SION)**

(75) Inventors: **Takashige Hoshiai**, Tokyo (JP); **Yukio Kikuya**, Tokyo (JP); **Hiroshi Shibata**, Tokyo (JP); **Takamichi Sakai**, Tokyo (JP); **Michiharu Takemoto**, Tokyo (JP)

(73) Assignee: **Nippon Telegraph and Telephone Corporation**, Tokyo (JP)

(*) Notice: Subject to any disclaimer, the term of this patent is extended or adjusted under 35 U.S.C. 154(b) by 1105 days.

(58) **Field of Classification Search** 707/1–10; 709/217–219
See application file for complete search history.

(56) **References Cited**

U.S. PATENT DOCUMENTS

5,758,332	A	*	5/1998	Hirotani	707/1
5,870,605	A		2/1999	Bracho et al.	
5,970,490	A	*	10/1999	Morgenstern	707/10
6,021,443	A	*	2/2000	Bracho et al.	709/241
6,134,532	A	*	10/2000	Lazarus et al.	705/14.25
6,178,416	B1	*	1/2001	Thompson et al.	707/3
6,263,335	B1	*	7/2001	Paik et al.	707/5

(Continued)

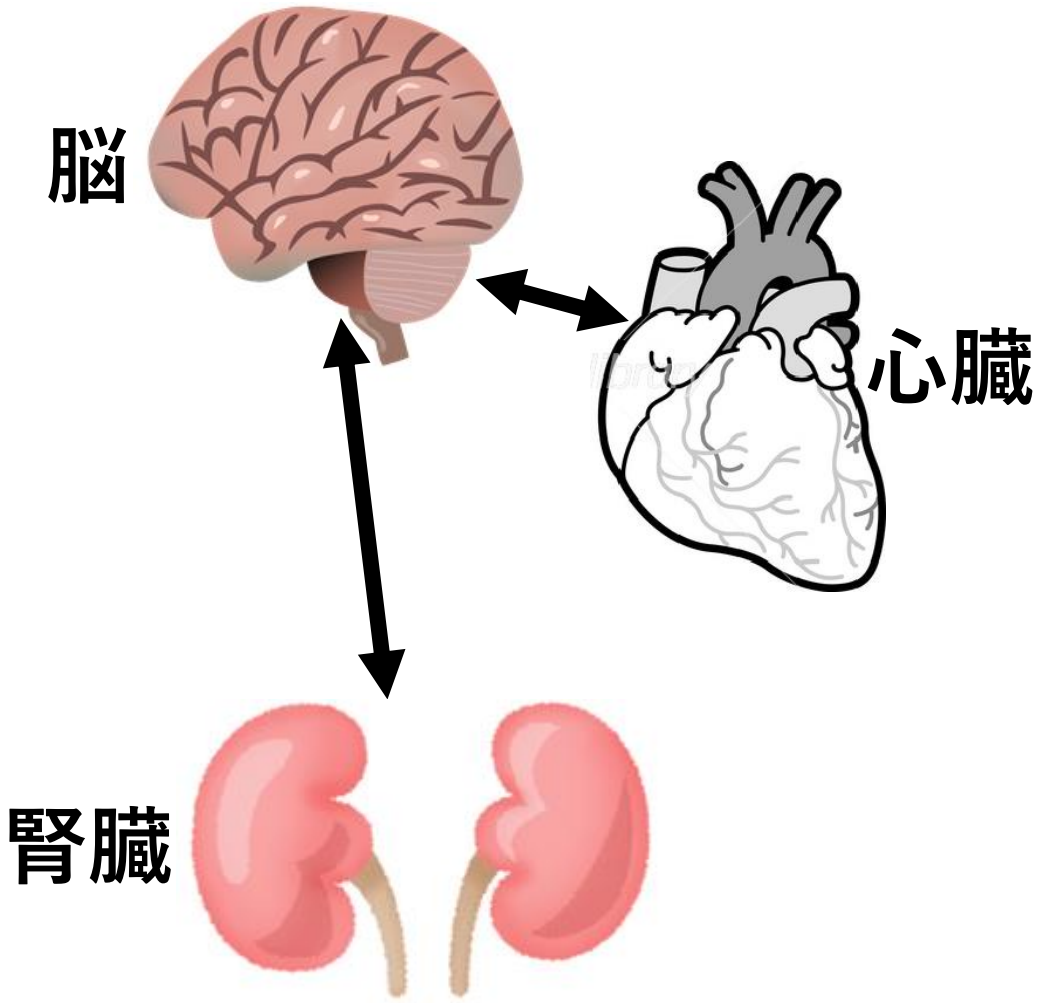
人体だろうがネットワークだろうが本質はみな同じ

人体もやっぱり
P2P
だった！

エクソソームが1997年に発見

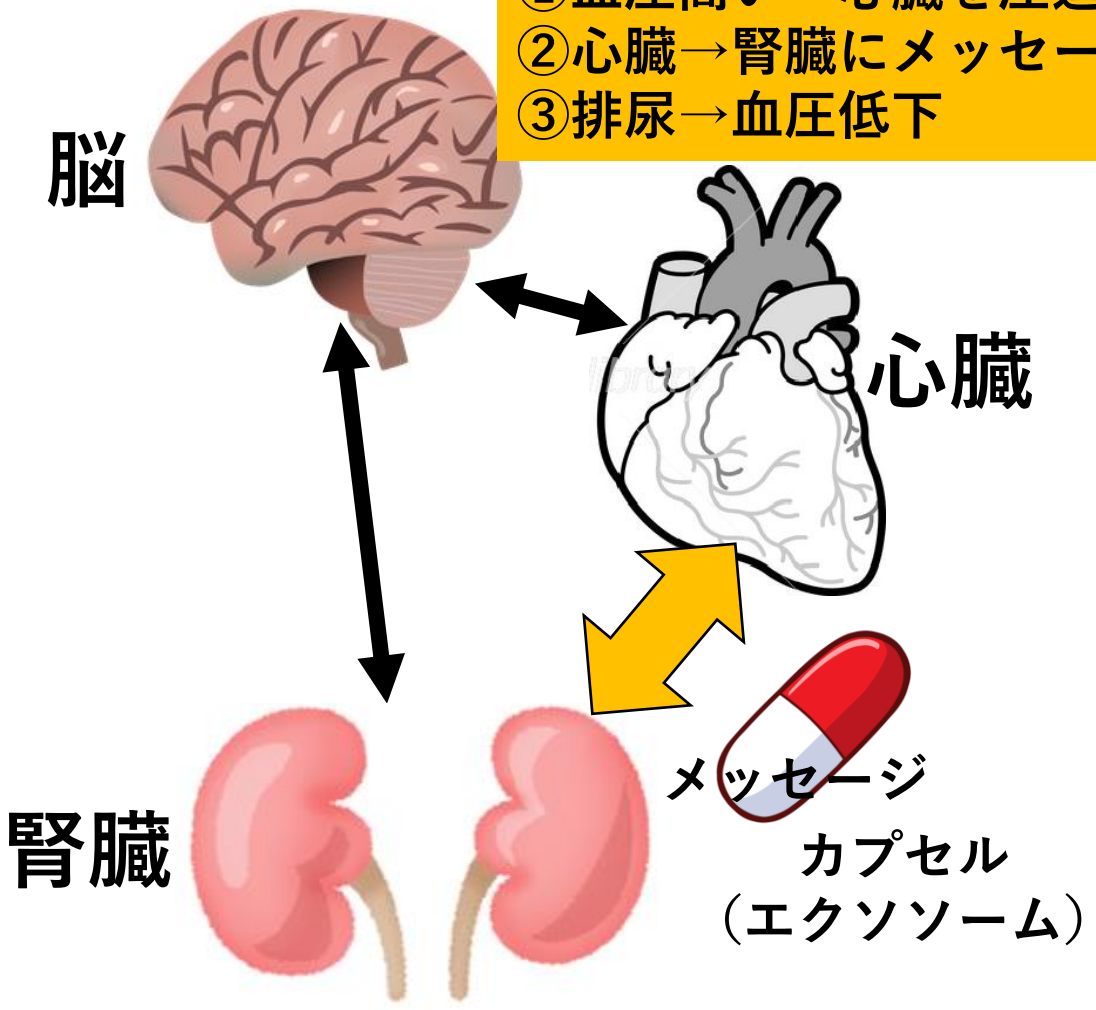
そして、タコの足もP2Pだった

中央集権(クライアントサーバ)型
脳を介して心臓と腎臓がコミュニケーション



P2P型
脳を介さず心臓と腎臓が直接コミュニケーション

①血圧高い→心臓を圧迫
②心臓→腎臓にメッセージ
③排尿→血圧低下



新結合とは

- 既存の資源を活用する
- 新たな**つながり**により新たな価値観を生み出す
  （化学反応、発火を起こす）
- 新結合は「つながり」が大切

新たな価値観の創出
（新たな文化）

ポケベル

語呂合わせ
『４６４９』

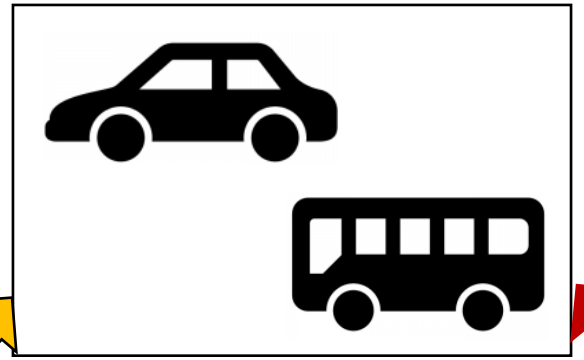
すでに存在している
資源の活用

出張先サラリーマン
の呼び出し

女子高生のコミュニケ―ション
ツール

新結合

新結合とは



自動車
（自動運転）

既結合　新結合

新たな価値観
の創出

既結合

学習

生活・娯楽空間

病院
（ヘルスチェック）

レストラン

移動空間

目的地

技術革新：スパコン「京」

蓮舫議員の２位じゃダメなんですかで一躍有名

- スパコン「京」の状況
  - ２０１２年９月　本格稼働
  - ２０１９年８月　稼働停止・解体（世界１８位）
  - ７年の寿命
- 建設費　800億円
- 運営費　100億円/年

ゼロからの構築
（トップダウンアプローチ）

技術革新：スパコン「京」

2019..6.21　神戸新聞より

「京」の再利用は非現実的
・経年劣化が顕著
・莫大な運営費、移設費
・独自仕様（非汎用的）

いわゆる高価な箱モノ

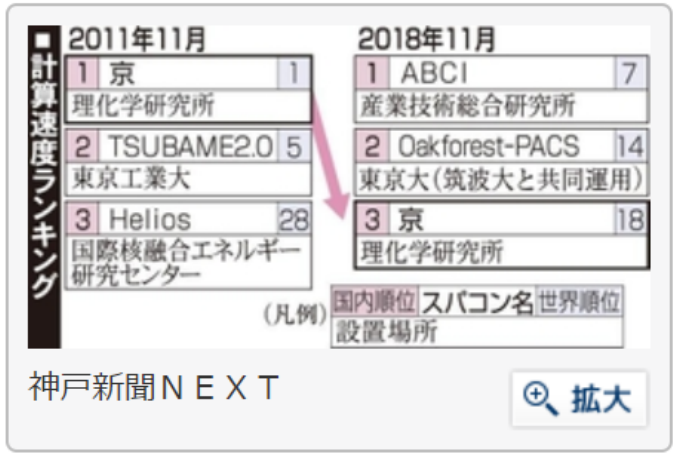
ゼロからの構築
（トップダウンアプローチ）

高リスク

2019/6/21 09:59　神戸新聞NEXT

スパコン京　移設、再利用が「非現実的」な理由

ツイート　おすすめ 241　シェア　印刷



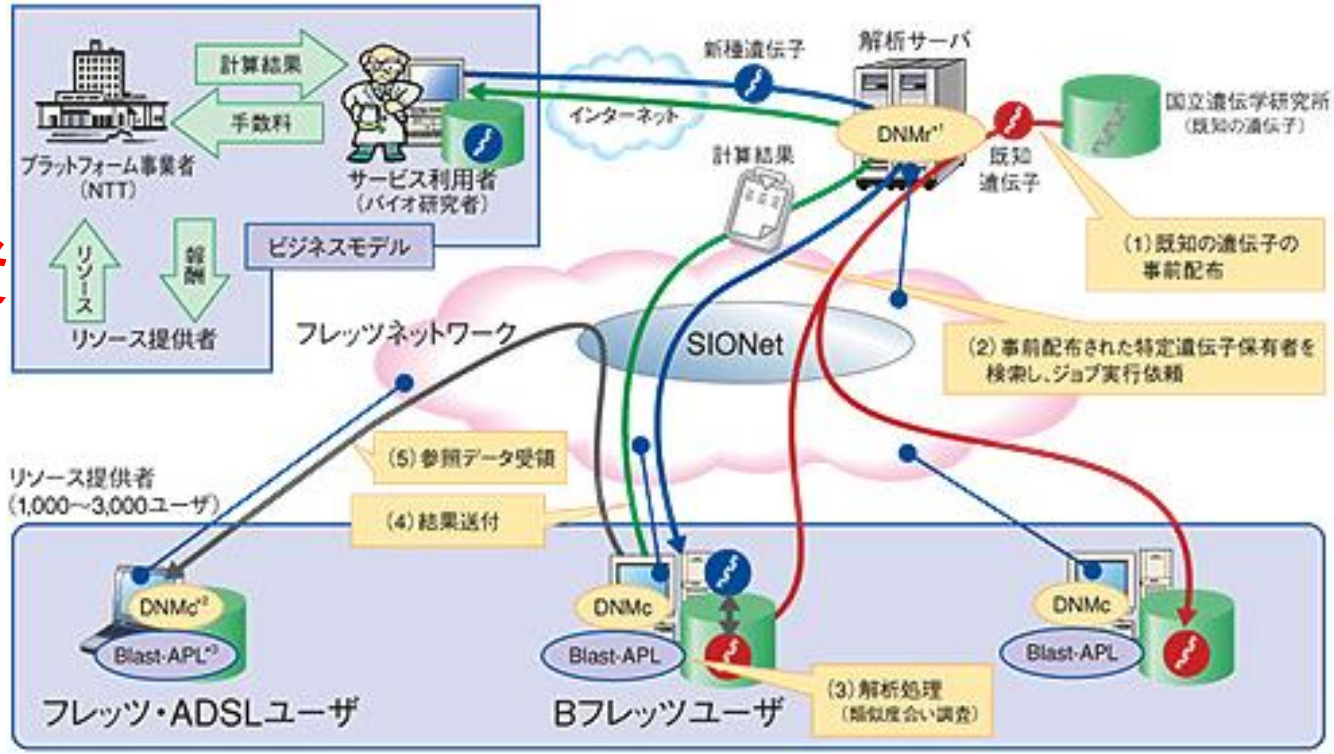
神戸・ポートアイランドのスーパーコンピューター「京（けい）」の電源が落とされる８月３０日まで、２カ月余りとなった。理化学研究所（理研）は９月以降に解体を始め、同じ場所に後継機となるスパコン「富岳（ふがく）」を整備するという。開発費などで７９３億円もかかった「京」のハードウエアは、移設したり一部を活用したりできないのか？　理研計算科学研究推進室を取材すると、家庭用パソコンとは異なる、スパコンの特殊性が浮かび上がってきた。（霍見真一郎）

新結合：フレッツ光グリッドサービス

- プレッツ光に加入している汎用PCをつないで、スパコンを実現
- 低コスト化

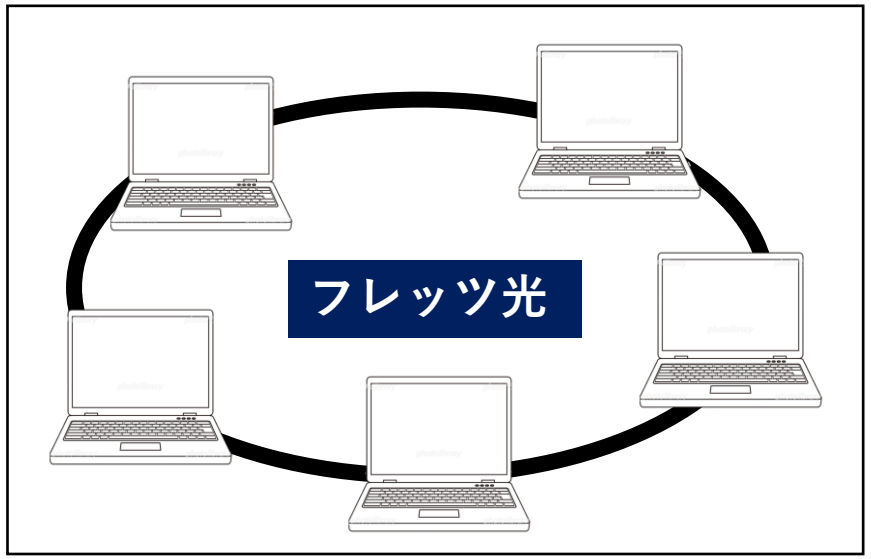
すでに存在しているコンピュータ資源をブローカレス（P2P）で繋げる
（ボトムアッププローチ）

低リスク



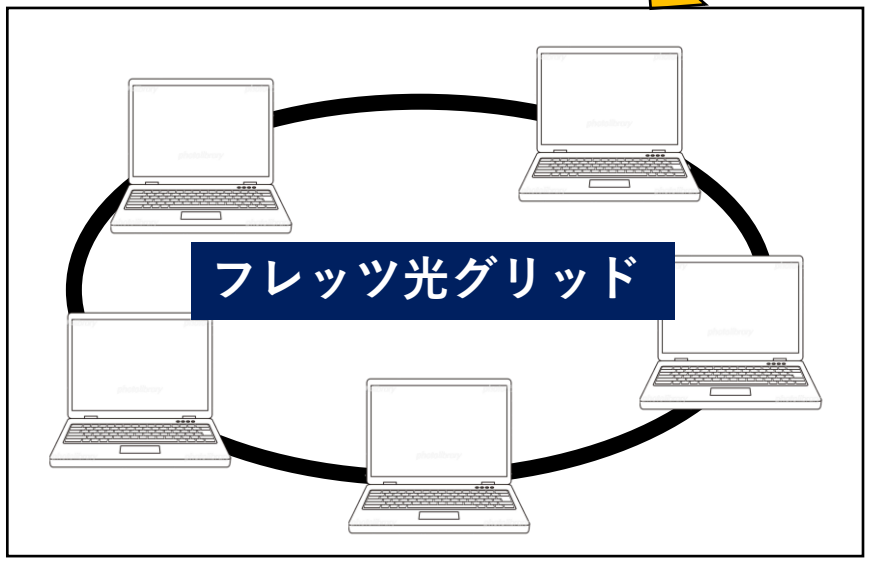
すでに存在している
コンピュータ資源を
活用

新たな価値観
の創出



新結合

スーパーコンピュータ



既結合

インターネットアクセス

- 疲弊した地域の活性化・地域創生

地域にイノベーションを創発する必要

地域イノベーション

- 「技術革新」と「新結合」の２つ

地域にはイノベーション「新結合」が有効

地域イノベーションに有効　　技術革新と新結合の両輪

- 「新結合」には「**つながり**」が大切

地域資源のつながりを科学

- 大切な「**つながり**」を科学することが重要

イベント・講演と理論との両輪　　直観・経験と理論との両輪

- そのための理論が**SCB理論**(地域コミュニティブランド)

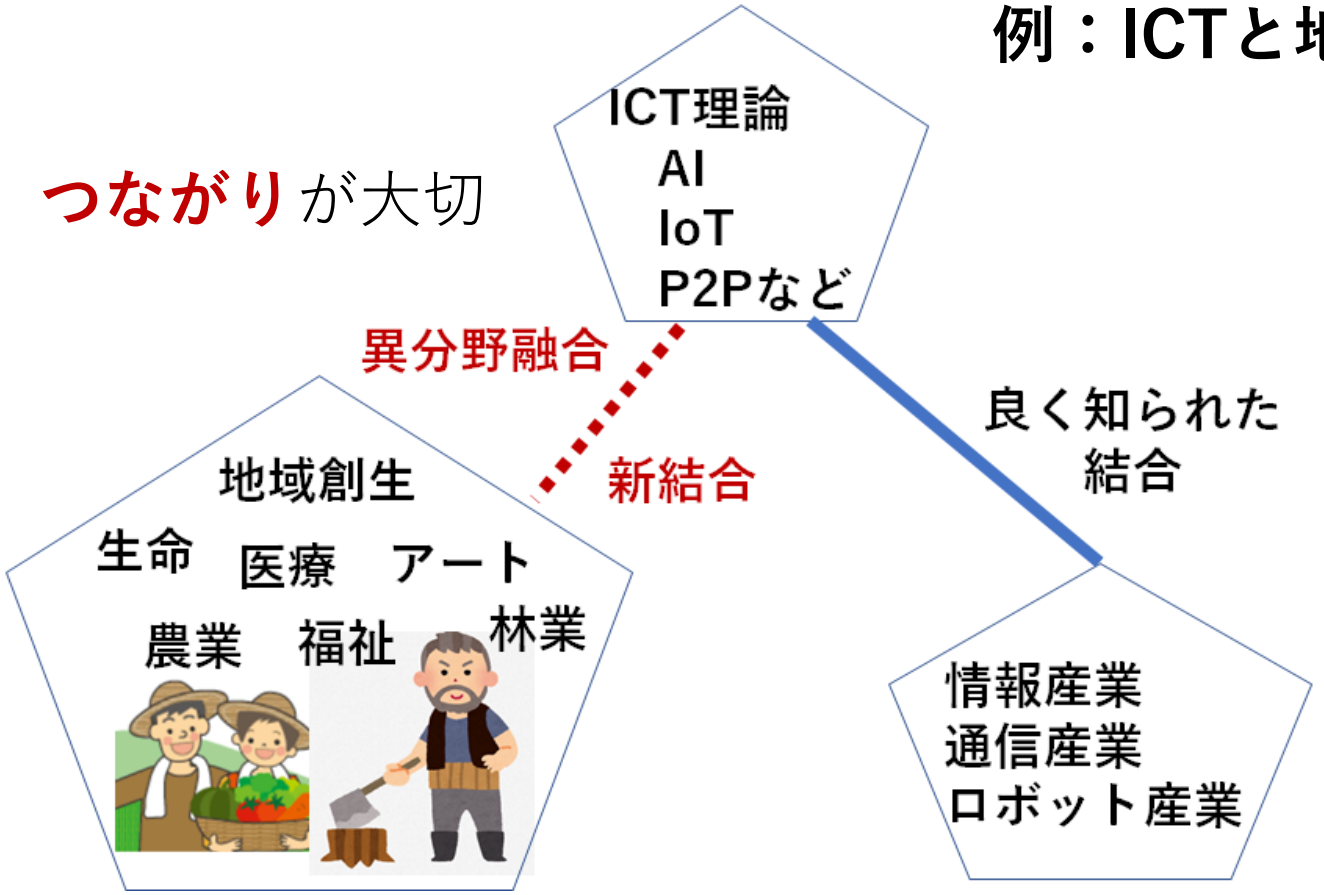
持続性、再現性、汎用性の高いつながりを低コストで実現　　世界初の理論

新結合の創発に向けて：３つの学び

異分野融合イノベーション

異なる分野間での新結合による新たな価値観を創出
例：ICTと地域創生、ICTとアート、ICTと福祉など

つながりが大切



３つの学び

- ICT理論（第４次産業革命）
- 結合分野のモデル化手法（課題モデルの構築方法）
- 結合（つながり）の手法（SCB理論）

理論と実践の両輪

つながり(新結合)を科学することの効果：

- つながりの高い再現性・持続性・汎用性を確保
- 低コストでのつながりを実現
- 一過性の抑止

高持続性、高再現性のつながりを低コストで実現

- 手段選択の消去法が可能
- レイヤーの不一致の抑止
- 議論のベクトル合わせが可能
- AI導入の容易化（論理モデル×AI）

イノベーションの効果：イノベーティブな組織

- 社員のやる気が醸成される
- 優秀な人材を確保できる
- 多種多様な地域資源を引き寄せる
- 新規ビジネス、スタートアップの創発
- 組織が活性化する

イノベーション創発に向けた取組

イノベーションの学びの場/教育プログラムの提供

▣全学部講義「異分野融合イノベーション」 2019年後期～

▣他大学講義「関東学園大学」など 2019年後期～

▣高校との連携協定締結「熊本西高校」など 2019.12.13
イノベーティブな高校生の育成

▣未来情報コースとIoT・AIセンター/SCB放送局開設
イノベーティブな学生の育成 2020年前期～ 2014年前期～

▣総務省地域ICTクラブ受託(キッズイノベーション)
イノベーティブな小中学生の育成 2019年後期～

▣SCBラボ・イノベーションアカデミー設立 2020年前期～
イノベーティブな社会人の育成

▣マイナビとの教材・システム開発と高校での運用
イノベーティブな高校生の育成 2019年後期～

5学部1年後期講義

新講義

異分野融合イノベーション

2019.9.13(T.HOSHIAI)

・イノベーション講義
・AI/IoT/P2P/暗号方式/pythonプログラミングなどの**ICT最先端テクノロジー**を学ぶとともに、**イノベーション創発の仕組み**を学習する

1

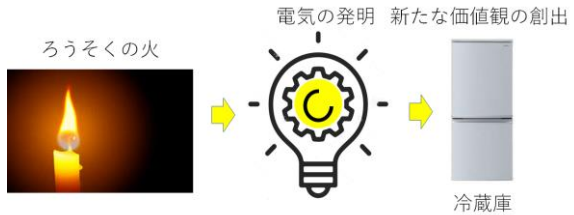
イノベーションとは？

- **技術革新**
- **新結合**

・イノベーションには、２つの意味がある
・技術革新と**新結合**

2

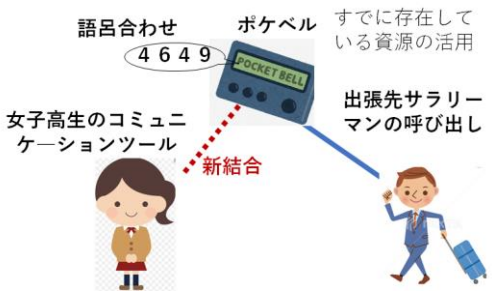
技術革新とは？



・技術の進展により、新たな価値観を生み出すこと
・電気の発明により、新たな光源を得るとともに、冷却という新たな価値観を創出

3

新結合とは？

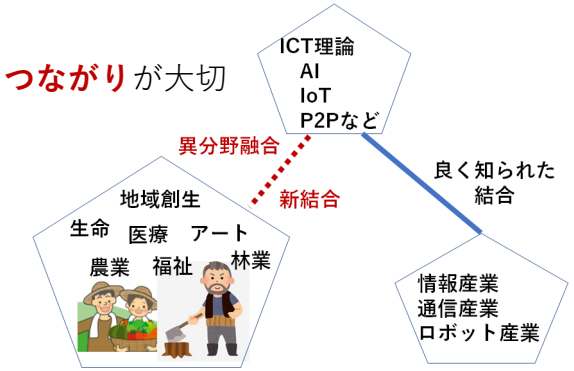


・新たな**つながり**により、新たな価値観を生み出すこと
・ポケベルと女子高生との**新結合**により、語呂合わせによるコミュニケーションツールとしての新たな価値観を創出

4

異分野融合イノベーションとは？

つながりが大切



・異分野融合は、新結合の一つの形
・異なる分野間での新結合により新たな価値観を創出。例として、ICTと地域創生、ICTとアート、ICTと福祉など

5

つながりが大切：
大切なつながりを科学する

本講義で学ぶこと

- **ICT理論の概要**
- **結合分野のモデル化手法**
- **結合（つながり）の手法**
- **イノベーションの事例**

課題モデル/理論の適用/実践

・単にICT理論を学ぶだけでなく、ICT理論を他分野で活用するためのモデル化手法（論理化、仮想化技術）や両者をつなげるための体系化手法である「つながりを科学するSCB理論」について学習する

6

SCB理論を用いたイノベーション事例

- **農水省**「組織改革によるイノベーション」
- **熊本市社会福祉協議会（厚労省）**「地域共生社会実現による福祉イノベーション」
- **財務省九州財務局**「宇土市まちづくり地域活性化イノベーション」
- **九州道の駅ネットワーク（国交省サポート事業）**「道の駅ネットワーク構築によるイノベーション」
- **総務省**「SCB-ALを用いたイノベーションアカデミー」
- **ソフトバンク/JCOM/(株)F.S.**「地域メディアによるイノベーションセンター運営」
- **崇城大学情報学科**「イノベーションによる新コース設置」
- **星野リゾートの分析**「企業マネジメントにおけるイノベーション」

□**疲弊した地域には新結合によるイノベーションが必要であり、そのためにはつながりが大切であり、従ってつながりを科学することが重要になる**

7

低コスト化・高い持続性・高い再現性
一過性の抑止

つながりを科学するSCB

つながりを科学することで、新結合による新たな価値観を創出する

・**仮想化**
・**体系化**
・**可視化**

8

熊本県立熊本西高校との連携協定を締結 2019.12.13

YAHOO! JAPAN ニュース

キーワードを入力

トップ | 速報 | 映像 | 個人 | 特集 | 意識調査 | ランキング | 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ

イノベーション人材育成目指す　崇城大・熊本西高などが包括的連携協定

12/14(土) 7:55配信

産経新聞

イノベーション人材育成に向けた崇城大学と熊本西高の連携協定の調印式

崇城大学（熊本市）と熊本西高校（同）、一般社団法人ＳＣＢラボ（同）は１３日、イノベーション人材の育成を目的に包括的連携協定を締結した。同大学が高校と連携協定を結ぶのは初めてで、高大接続による「新たな価値の創造に主体的に取り組める人材の育成」（中山峰男学長）を目指すという。

同大学で会見をした情報学部の星合隆成教授は、業務連絡用を主目的に開発したポケットベルが女子高校生のコミュニケーションツールになった事例を挙げたうえで「既存の資源を活用し、新たなつながりによって新しい価値を創出することが、地域におけるイノベーションには大切。その新たな結合を生むための基本的な考え方や手法を学ぶ訓練の場を提供したい」と連携に至った背景を説明。

来年度にサイエンス情報科を新設する同高の柿下耕一校長は「連携によって、生徒が先端の技術革新の情報、地域課題に触れ、それを踏まえ、新しい価値の創造を考える機会が増えることが期待できる。地域産業の育成に貢献できる人材を育てたい」と話した。

具体的な教育プランは現在作成中だが、星合教授は「熊本のイノベーションの情報発信基地にしたい」と意気込みを語った。

SCB理論による学部改革

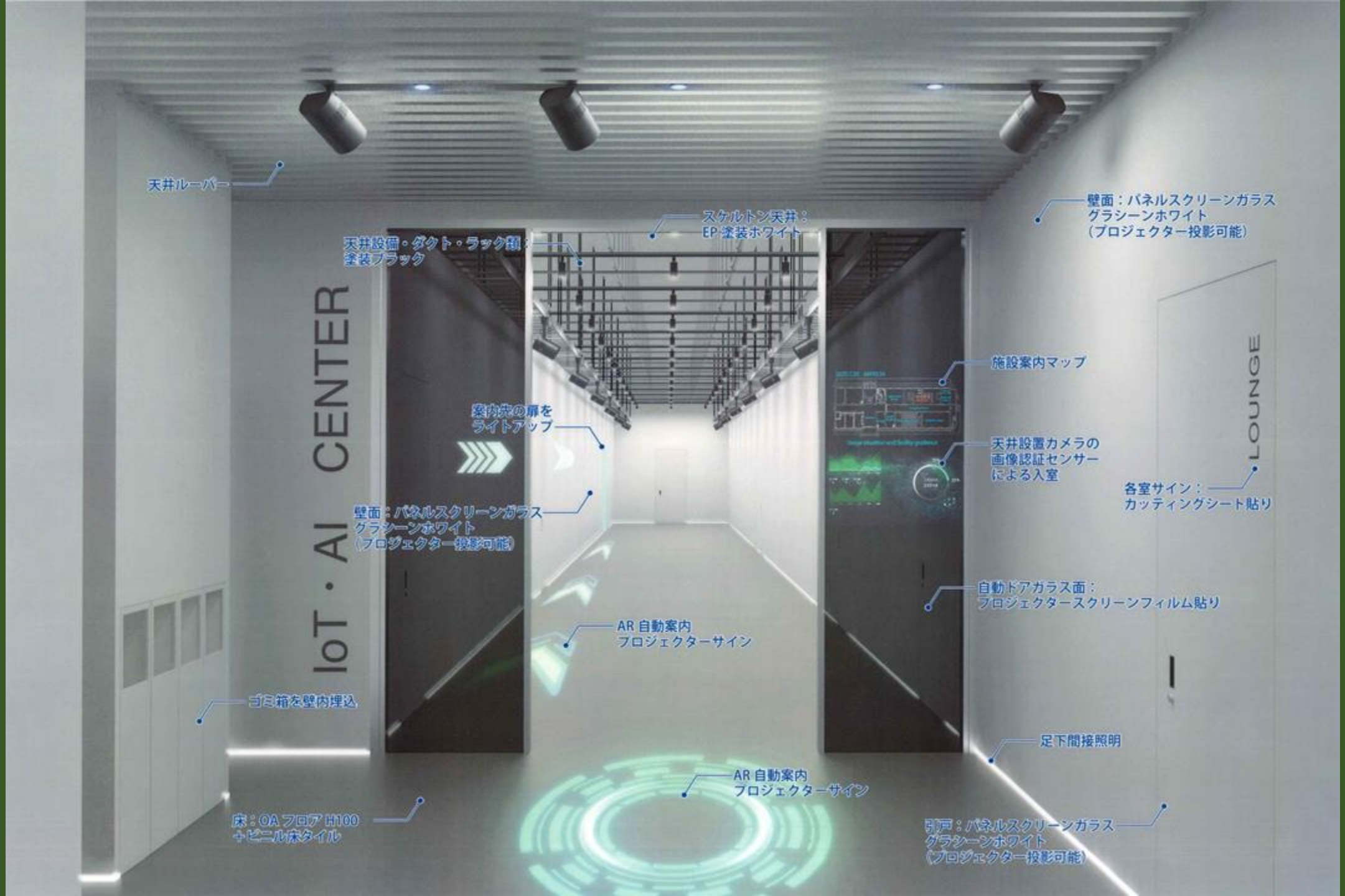
2020年4月スタート

未来情報コース
×
IoT・AIセンター/SCB放送局
×
SCBラボ（企業/自治体）

プラットフォーム型講義と
課題解決型講義との両輪

課題A解決のための講義	課題B解決のための講義	SCB-AL 他大学でも実施

プラットフォーム（基盤となる講義）
IoT, AI, P2P, Pythonなど


天井ルーバー
スケルトン天井：
EP 塗装ホワイト
天井設備・ダクト・ラック類：
塗装ブラック
壁面：パネルスクリーンガラス
グラシーンホワイト
（プロジェクター投影可能）
IoT・AI CENTER
施設案内マップ
案内表の扉を
ライトアップ
天井設置カメラの
画像認証センサー
による入室
LOUNGE
各室サイン：
カッティングシート貼り
壁面：パネルスクリーンガラス
グラシーンホワイト
（プロジェクター投影可能）
自動ドアガラス面：
プロジェクタースクリーンフィルム貼り
AR 自動案内
プロジェクターサイン
ゴミ箱を壁内埋込
足下間接照明
AR 自動案内
プロジェクターサイン
床：OA フロア H100
＋ビニル床タイル
引戸：パネルスクリーンガラス
グラシーンホワイト
（プロジェクター投影可能）

キャンパススタジオ/SCB放送局

2014年～

情報学部棟

街と人、企業と活動をつなぐ発信基地。大学放送局が新たな可能性を拓く。

2014年、キャンパススタジオが開局して以来、行政や民間企業など多方面から注目を集めている崇城大学SCB放送局。
情報学部の星合隆成教授率いるSCB(「Social Community Brand」の略称)放送局は、最新鋭の設備を完備。
授業科目「メディア・コンテンツ制作入門・演習」では最新機器を用いてのプロ(TV局、ラジオ局)による講義、演習が行われ、
最先端のアクティブラーニングを開講しています。
また、実際のTV局やラジオ局のプロをパートナーとして迎え入れ、
企画・制作から放送まですべて学生自身の手で行うワークショップを開催しています。
2015年には「SCB放送局 新市街スタジオ」も開局し"地域活性化のプラットフォーム"として活動も一層広がりを見せています。

VOICE of STUDENT STAFF

放送スキルから仕事に対する心構えまで
大学にいながらプロ級の仕事ができる！

牛島さん 情報学科 2年生 熊本県・第一高校出身

昔からテレビ関係の仕事を目指していたね。崇城大学へ入学する決め手になったのが、放送スタジオSCBの存在でした。現在は、熊本のバスケットボールチーム「ヴォルターズ」と協定を結んでいる学生制作番組「ヴォルターズch」で、チームとバスケットボールを盛り上げる番組を作って、ネット配信しています。カメラマンと編集を担当し、ホームゲームの取材、試合の撮影撮影、ファンの方のインタビュー、さらには地域のバスケットボールイベントの取材などに駆け回る日々です。プロの方と一緒に、プロに近い仕事ができるのは、放送やメディアに興味がある人にとって恵まれた環境。さらに、広報や仕事に対する心得からスケジュール管理まで、社会で必要なスキルも、実践的に身につく場だと思います。私の将来の夢はテレビ局のディレクターになって、番組の企画や編集を行うこと。SCBでの活動を通して、視聴者を意識した番組作りのスキルを磨き、夢へと生かしていきたいです。

SCB放送局新市街スタジオを拠点にメディア企業が集結！

2015年4月、熊本市中央区の新市街商店街に新設オープンした「崇城大学SCB放送局新市街スタジオ」は1Fに放送スタジオ、2Fにフリースペースを設けた多目的スポット。この新市街スタジオを拠点に、熊本朝日放送KAB、くまもと県民テレビKKT、J.COM、熊本日日新聞、地元フリーペーパー「すばいす」、雑誌「ナッセ」などメディア企業9社が集結し、学生と連携した番組制作や雑誌づくりを行っています。また、熊本市、合志市、NTT西日本、NEC関連企業、熊本信用金庫、医療機関、プロバスケットボールチーム「熊本ヴォルターズ」、市民団体の方々が新市街スタジオを拠点に地域活性化の活動を展開中です。その結果、SCBの学生メンバーが日テレ制作会社を始めメディア企業への合格を果たしました。

SCBで得た人との繋がりを糧に、東京オリンピックでカメラマンを目指します！

キーワードはプロとの連携 共同制作企画が続々と進行中

プロと連携した共同制作企画

- 熊日日日新聞との月1回の紙面連載中
- FM桜生との月2回の番組放送中
- J.COMとの週1回の番組放送(4月スタート)
- くまもと県民テレビとの夢まちランドの番組放送
- 雑誌「ナッセ」の紙面連載
- ICT、農業、サブカルなどをテーマにした番組制作 など

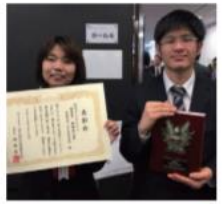
進行中のSCBを用いたアクティビティ

- 熊本市MICE活用検討委員会(役割)の運営
- 熊本市図書館活性化委員会の運営
- NASAハッカソンの運営
- TED×Kumamotoshiの開催
- 電子情報通信学会九州支部100周年記念イベントの運営
- 電子情報通信学会SOLIOプランチの運営
- 防災ラジオドラマの制作(防災研究所からの受託事業)
- 大西熊本市長と星合教授の対談記事を制作
- 荒木合志市長と星合教授の対談記事を制作 などその他多数

SCB放送局 新市街スタジオ：放送中でも通りから見学できるオープンなスタジオです。

学生作成コンテンツは多数のコンテスト入賞

テレビでおなじみの4局のアナウンサーがおすすめの本を持ち寄り、審評合戦で火花を散らすという「テレビ局対抗ビブリオバトル」でSCB放送局が優勝。



国連防災世界会議の防災コンテストにて、学生が制作したラジオドラマが見事入賞しました。

総務省「地域ICTクラブ」地域実証事業を受託

総務省 MIC Ministry of Internal Affairs and Communications

ご意見・ご提案　ENGLISH(TOP)　ENGLISH(ICT POLICY)　アクセシビリティ閲覧支援ツール　文字

Google カスタム検索

総務省の紹介 | 広報・報道 | 政策 | 組織案内 | 所管法令 | 予算・決算 | 申請・手続

・報道 > 報道資料一覧 > 「地域ICTクラブ」地域実証事業に係る採択候補の決定

報道資料

令和元年7月10日

「地域ICTクラブ」地域実証事業に係る採択候補の決定

総務省では、「地域ICTクラブ普及推進事業」に係る企画案の公募を行い、外部有識者による評価会の結果を踏まえ、採択候補(17件)を決定しました。

また、「地域ICTクラブの設立・運営に関するガイドライン(初版)」を策定しました。

	市教育委員会））	(4)(5)	1.高知県 2.科学館と高専との連携を中心とした新しいIoT人材育成モデル
【九州】 熊本県	熊本市防災ICT人材育成協議会 （一般社団法人SCBラボ）	(4)(5) (9)	1.熊本市 2.「防災」をキーワードに地域の力を結集する地域課題解決型モデル
【沖縄】 沖縄県	おきなわICTクラブ運営協議会 （一般社団法人おきなわジュニア科学クラブ）	(2)(3) (10)	1.沖縄市、宜野湾市 2.こどもの居場所づくりと連携し、STEM教育を展開する地域ICTクラブモデル

熊本県・熊本市・The Company・崇城大学・熊日新聞社との6社連携協定を締結
2019.12.26

報道資料

令和元年（２０１９年）１２月２０日

「熊本の地域コミュニティ構築とイノベーション創発に向けた包括連携」に関する協定調印式の開催について

この度、一般社団法人ＳＣＢラボ、学校法人君が淵学園 崇城大学、株式会社熊本日日新聞社、株式会社Ｚｅｒｏ－Ｔｅｎ　Ｐａｒｋ、熊本市、及び熊本県は、標記の包括連携協定を締結することになりました。

つきましては、下記のとおり、調印式を開催しますのでお知らせします。

記

包括連携協定調印式

(1)日　時：令和元年（２０１９年）１２月２６日（木）１１：００～

(2)場　所：熊本県庁行政棟本館５階　知事応接室

(3)出席者：

・一般社団法人ＳＣＢラボ

副代表理事　　添島　絵美（添島歯科クリニック歯科医師）

理事（所長）　　星合　隆成（崇城大学 情報学部 情報学科 教授）

・学校法人君が淵学園　崇城大学

理事長・学長　　中山　峰男

・株式会社熊本日日新聞社

代表取締役社長　河村　邦比児

・株式会社Ｚｅｒｏ－Ｔｅｎ　Ｐａｒｋ（Ｔｈｅ　Ｃｏｍｐａｎｙ熊本）

常務取締役　　上田　真也

・熊本市

経済観光局長　　平井　英虎

・熊本県

副知事　　小野　泰輔

(4)連携の内容：

本県の地域コミュニティ構築・イノベーション創発等に取り組み、地方創生を推進するにあたり、包括連携協定を締結するものです。

具体的な連携事項としては、以下のとおりです。

・イノベーションを担う人材の育成に関すること

・新たなビジネスの創出に関したネットワークづくりに資する取組みに関すること

連携協定締結後、(一社) ＳＣＢラボ、学校法人君が淵学園　崇城大学、株式会社Ｚｅｒｏ－Ｔｅｎ　Ｐａｒｋの三者による事業内容（2020 年 4 月に桜町に開設予定のイノベーションアカデミー）について会見予定。

YAHOO! JAPAN ニュース

キーワードを入力

トップ | 速報 | 映像 | 個人 | 特集 | 意識調査 | ランキング | 有料

主要　国内　国際　経済　エンタメ　スポーツ　IT　科学　ライフ　地

イノベーション人材育成へ熊本県・市・崇城大が協定

12/27(金) 7:55配信

産経新聞

イノベーション人材育成に向け、熊本県・市など６者が連携協定を結んだ締結式

イノベーション人材の育成を進めようと、熊本県・市と、同市内にある崇城大学と一般社団法人ＳＣＢラボなどが２６日、包括的連携協定を締結した。同大情報学部教授で、ラボ所長の星合隆成氏が提唱する人や組織の最適な結びつきを目指す「地域コミュニティーブランド（ＳＣＢ）理論」の普及を目指す。

協定には４者のほか、シェアオフィス「ザ　カンパニー」を運営するゼロテンパーク（福岡市）と熊本日日新聞社（熊本市）が参加した。

県庁で開かれた締結式で、熊本県の小野泰輔副知事は「属人的な手法ではなく、イノベーションを起こす仕組みを作ることが大事だ。ＳＣＢ理論は大変興味深く、私も勉強している」と語った。星合氏は「学びの場を提供するとともに、県外企業など、さまざまな資源を集める」と意気込んだ。

The Companyとの連携協定を締結 2019.11.21

２０１９年１１月２１日

（甲）住所　福岡県福岡市博多区祇園町 8-13 第一プリンスビル 1F

名称　The Company

代表者　総支配人　瀬戸　智弘

瀬戸 智弘

（乙）住所　熊本市西区池田 4-22-1

名称　一般社団法人 SCB ラボ

代表者　所長　星合　隆成

星合隆成

SCBイノベーションアカデミー

supported by Sojo univ.

SCBラボ×The Company×崇城大学

Social Community Brand

The Company

Work Link.

SCBイノベーションアカデミーでの学びについて

SCB-AL（SCBアクティブラーニング）

1．みなさまの活動、企業の取り組みを**番組コンテンツとして制作し、TV番組やラジオ番組として配信**します。また、そのためのスキルを学ぶことができます。

SCB放送局を活用.　J:COM、FM桐生、シティFM、新聞などのレギュラー番組化

2．みなさまの活動、企業の取り組みを**プレゼンテーション**するためのスキルを学ぶことができます。

崇城大学IoT・AIセンターのプレゼンスタジオを活用

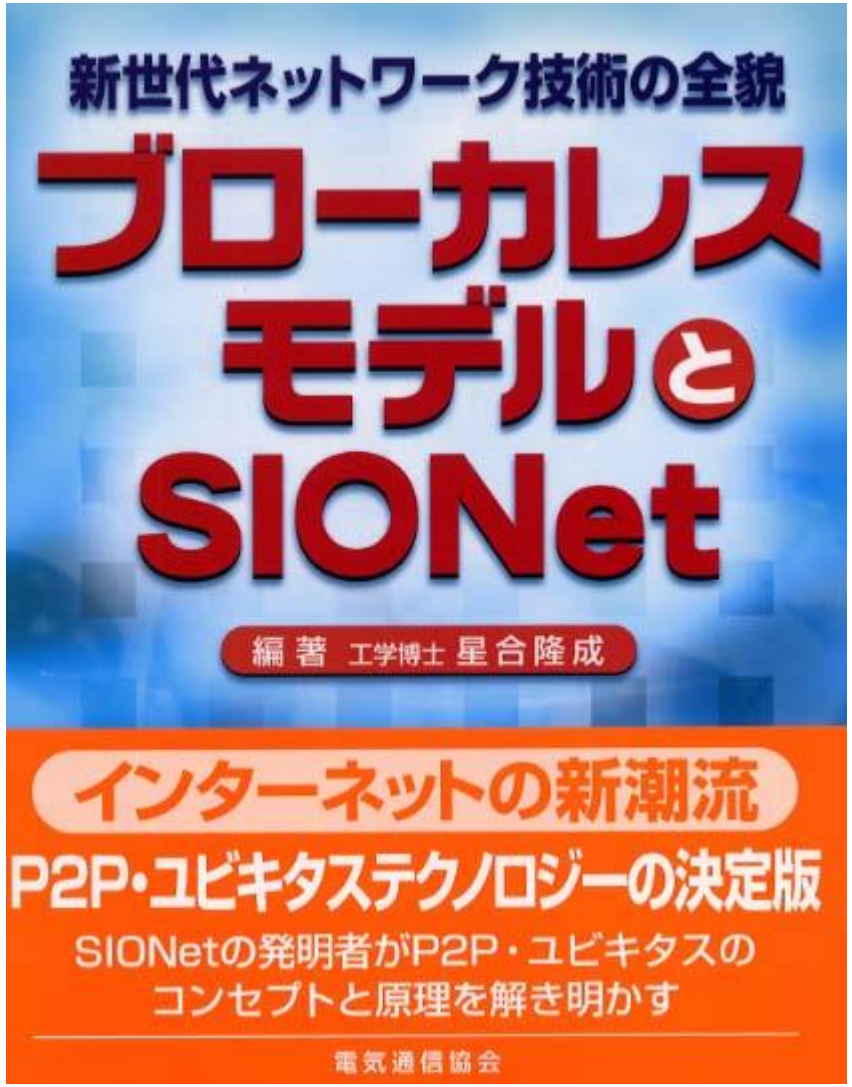
3．みなさまの活動、企業の取り組みにイノベーションを創発するための**ICTテクノロジー**について学ぶことができます。

4．みなさまの活動、企業の取り組みにイノベーションを創発するための**イノベーションメソッド**について学ぶことができます。

5．みなさまの活動、企業の取り組みにイノベーションを創発するための**世界初＆世界最先端の理論であるSCB理論・SCBメソッド**について学ぶことができます。

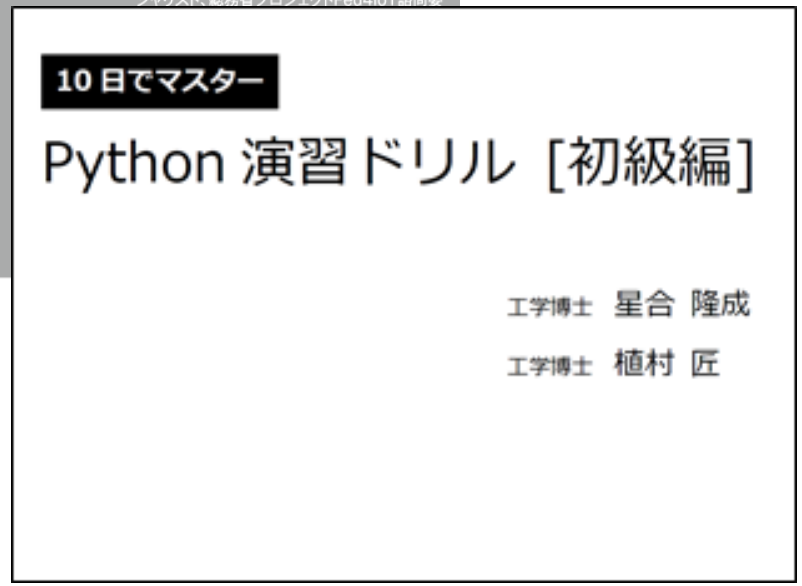
テキスト(教本)の出版

オーム社



木楽舎

森北出版



Presented by

(一社)SCBラボ　ソフトバンク(株) 地域振興推進室　(株)フューチャーセッションズ

(株)FM桐生　(株)ジェイコム九州　TEDx Kumamoto

イノベーションを起こしたい人
新規ビジネスを創出したい企業
スタートアップを行いたい人
つながりを科学的に学びたい人

SCBイノベーションアカデミー

2020年4月生募集中

SCB ラボ ×The Company× 崇城大学

■**アカデミー校長**　P2P 提唱者 星合隆成
（工学博士、崇城大学教授、早稲田大学客員）

■**アカデミー運営者**　一般社団法人 SCB ラボ

■**カリキュラム**　イノベーション・SCB理論　ICT講座　情報発信スキルアップ講座
プレゼンテーション講座　ソフトバンク・フューチャーセッションズによる特別講座　など

■**会費（月謝）**　①個人　レギュラー5,000円/月　プレミアム20,000円/月　②法人　応相談

ソフトバンク(株)、(株)フューチャーセッションズ、(株)J:COM九州、(株)FM桐生
TEDx KUMAMOTO は、（一社）SCB ラボの登録メンバーです。

地域創生、地域活性化を行うためには、地域にイノベーション（新結合）を創発する必要があります。
新結合（イノベーション）とは、すでに存在している地域資源を新たな観点から結合することにより、新たな価値観を生み出す（発火させる）ことです。
そのためには、資源同士の「つながり」が何よりも大切であり、だからこそ、大切な「つながり」を科学的に考える必要があるのです。これにより、持続性、再現性の高いつながりを低コストで実現します。
SCB 理論（地域コミュニティブランド）は、世界初・世界最先端の「つながり」を科学する理論です。

申込・詳細はこちらから

■**アカデミー実施場所**
The Company 熊本
熊本県熊本市中央区桜町 1 番 25 号
Tel. 096-288-0030　Fax. 092-292-4945
[電話受付時間 / 平日 9:00~20:00]

詳しくはウェブサイト https://scblab.jp　★　または検索で　SCBラボ　検索

SCBイノベーションアカデミーに関する情報

- **アカデミー運営者**　(一社)SCBラボ

- **アカデミー実施場所**　The Company 熊本
  熊本県熊本市中央区桜町1番25号
  Tel. 096-288-0030　Fax.092-292-4945
  [電話受付時間/平日 9:00~20:00]

- **教育プログラム提供者**　(一社)SCBラボ
  ソフトバンク（株）地域振興推進室
  マイナビ
  (株)フューチャーセッションズ
  J:COM九州
  FM桐生
  TED×KUMAMOTO

  ソフトバンク（株）、マイナビ、(株)フューチャーセッションズ、J:COM九州、FM桐生
  TED×KUMAMOTO、The Company、崇城大学は、(一社)SCBラボの登録メンバです。

- **連携協定**　熊本県 熊本市 マイナビ 熊本県立熊本西高校　The Company 九州道の駅ネットワーク

- **アカデミー校長**　P2P提唱者　星合隆成（工学博士、崇城大学教授、早稲田大学客員）

申込・詳細はこちらから

SCBイノベーションアカデミー
Supported by SOJO Univ.
SCB ラボ × The Company × 崇城大学
The Company

SCBイノベーションアカデミー
Supported by SOJO Univ.
SCB ラボ × The Company × 崇城大学
The Company

イノベーションアカデミーの拠点

▣中央区桜町(熊本市中心市街地) 2020.4～
▣福岡市博多 2020.4～
▣関東 2021.4～
▣海外
▣道の駅サテライト（９か所）2020.4～

▣サロン（仮想化展示パネル）
▣新聞、TV番組、ラジオ番組の連載

(一社)SCBラボの紹介

Social Community Brand

社員

医療法人如水会(嶋田病院)
学校法人君が淵学園(崇城大学)
熊本バスケットボール株式会社(熊本ヴォルターズ)
株式会社ナレッジコミュニケーション

理事（10名）

顧問	中山峰男（崇城大学学長）	理事	内村　安里（熊本バスケットボール株式会社CEO）
顧問	中里秀則（早稲田大学教授）	理事	奥沢　明（ナレッジコミュニケーション代表取締役）
代表理事	嶋田英敬（医療法人如水会理事長）	理事	小保方　貴之（一社ジョブラボぐんま副理事長）
副代表理事	田尻博子（COCO-CAWAII代表）	理事	吉見　憲二（佛教大学准教授）
副代表理事	添島絵美（添島歯科クリニック歯科医師）	理事	片山　和洋（ハナウタカジツ代表）
理事(所長)	星合隆成（崇城大学教授・早稲田大招聘研究員）	監事	早田　啓考（コンセプトラボ株式会社取締役）
理事	浅川浩二（デルタワークス代表）	監事	内藤　豊（崇城大学助教）

(一社)SCBラボの主要メンバー

・ソフトバンク、マイナビ、フューチャセッションズ
・The Company、J:COM九州、FM桐生
・熊本県、熊本市、熊本県立熊本西高校
・道の駅阿蘇、熊本市社会福祉協議会、総務省地域ICTクラブ
・道の駅九州
・ナレッジコミュニケーション、ワイズリーディング
・ジョブラボぐんま、コンセプトラボ、早稲田大学中里研

など５０企業・団体：県内外の資源がつながる

(一社)SCBラボのミッション

▣イノベーションアカデミーの設立・運営

・イノベーションを創出できる人材の育成
・イノベーションの学びの場やサロンの提供
・県外の地域資源との連携を醸成

▣SCB理論の普及

・イノベーイノベーション創発/地域創生/地域活性化のための理論(2011年提唱)
・全国５０のプロジェクトがSCB理論を活用

SCB理論の普及

農水省
プラスワンプロジェクト

平成 31 年３月

プラスワン！プロジェクト

「省外とのネットワークや人脈の共有・拡大」に係る提言

問題意識

人と人とのつながりは、繋がっている当人同士は認識があるが、外からは見えにくい。更に、自分の人脈を自ら積極的に公開する人は希であり、その理由としては特定の人物と繋がっていることが他者との比較において優位な資産(=ヒューマンリソース）と考えているからではないか。このような要因が重なり、人脈の共有や可視化を望む声は多いものの、気軽に共有されることは少ない。

これは、農林水産省に限った話ではなく、多くの組織が同様の問題意識を抱えており、"Sansan"といった名刺管理サービスが盛況なのもこの裏返しと想像できる。

検討経緯

本プロジェクトを通じて検討を進めるなかで、経済産業省が試験導入したこともあると聞いた"Sansan"の導入も念頭にあった。ただ、元々「20 年先を見据えた提言」ということを踏まえれば、理想として「自分の知見（人脈）を提供し、職員相互に助け合える職場環境」を将来の農林水産省に風土につながるようなものにしたいというチームの結論に至った。

検討を重ねるなかで、インターネット上に自己組織化型・自律分散協調型のネットワークコミュニティを構築するためのネットワーク理論である「ブローカレス理論(※)」を活用した地域活性の取組（地域コミュニティブランド）を知る。チームで議論した結果、インターネット技術を応用することで「人と人とのつながり」を科学的に研究し、実社会への応用を試みているこの理論を、本プロジェクトの基本コンセプトとした。

(※)「ブローカレス理論」：従来、ブローカー（仲介者）が担っていた役割を、それぞれのユーザーがボランティアとして分担することにより、特定のブローカーの存在を前提せずにネットワークを構築・運営するモデル。任意のユーザーが脱退しても、全体に影響を与えないよう残されたユーザーが自律的に自己組織化すること、グループへの参加・退去はユーザーの自主性にゆだねられると

～つながりを科学する～
ブローカレス理論と
その活用事例について

「プラスワン！プロジェクト」関連勉強会

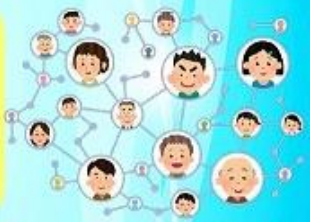
スタディーフライデーに習って、
金曜午後に新たな知見を広げてみませんか？

「あの人と知り合いだったから、話がスムーズに進んだ」という経験ありませんか？一方で、人との繋がりは偶然の産物という声も聞きます。本勉強会では、「つながること」を科学的に研究された理論とその具体的な取組をご紹介します。Skypeやブロックチェーン技術にも応用されている情報通信技術(※)を応用して、ヒト・モノ・カネに限らず様々な地域資源を「つなげる」ことで新たな価値を産みだし、地域活性に活用する「地域コミュニティブランド（SCB）」の活動をされている、星合教授ご本人に講演して頂きます。

※1998年、星合教授により提唱された世界初のP2Pネットワーク理論である「ブローカレス理論」

こんな方にオススメ！！

✓「つながること」や、「つながりを科学的に考えること」に興味がある方
✓「フラットでボトムアップ型」の組織づくりに興味がある方　など



日時：9月6日（金）18:30～20:00

会場：秘書課研修室（本館7階ドアNo.772）

参加方法：応募フォームより申込　〆切：9月3日（火）

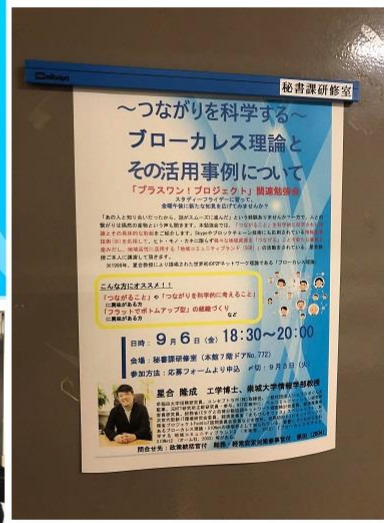
星合 隆成　工学博士、崇城大学情報学部教授

早稲田大学招聘研究員。コンセプトラボ(株)取締役。一般社団法人ジョブラボぐんま監事。元NTT研究所主幹研究員・参与。NTT在職中に、ベルコミュニケーション研究所客員研究員。総務省ICタグと自律分散協調ネットワーク調査検討会委員、経済産業省次世代型新IT環境研究会委員、経済産業省「まちげんきフェス」スペシャリスト、総務省プロジェクトFed4IoT諮問委員会委員などを歴任。世界初のＰ２Ｐネットワークであるブローカレス理論・SIONetの提唱者として知られている。著書に『つながりを科学する　地域コミュニティブランド』（木楽舎、2018）『ブローカレスモデルとSIONet』（オーム社、2003）等がある。

問合せ先：政策統括官付　総務・経営安定対策参事官付

～つながりを科学する～
ブローカレス理論と
その活用事例について
「プラスワン！プロジェクト」関連勉強会
スタディーフライデーに習って、
金曜午後に新たな知見を広げてみませんか？

こんな方にオススメ！！
✓「つながること」や、「つながりを科学的に考えること」に興味がある方
✓「フラットでボトムアップ型」の組織づくりに興味がある方　など
日時：9月6日（金）18:30～20:00
会場：秘書課研修室（本館7階ドアNo.772）
参加方法：応募フォームより申込　〆切：9月3日（火）
星合 隆成　工学博士、崇城大学情報学部教授
早稲田大学招聘研究員。コンセプトラボ(株)取締役。一般社団法人ジョブラボぐんま監事。元NTT研究所主幹研究員・参与。NTT在職中に、ベルコミュニケーション研究所客員研究員。総務省ICタグと自律分散協調ネットワーク調査検討会委員、経済産業省次世代型新IT環境研究会委員、経済産業省「まちげんきフェス」スペシャリスト、総務省プロジェクトFed4IoT諮問委員会委員などを歴任。世界初のＰ２Ｐネットワークであるブローカレス理論・SIONetの提唱者として知られている。著書に『つながりを科学する　地域コミュニティブランド』（木楽舎、2018）『ブローカレスモデルとSIONet』（オーム社、2003）等がある。
問合せ先：政策統括官付　総務・経営安定対策参事官付



地域共生社会の実現を目指して：厚労省

地域共生社会推進検討会中間とりまとめ, 令和元年７月19日

①地域共生社会の実現を、今後の福祉改革の**基本コンセプト**として位置づける

②地域共生社会の実現に向けた地域づくり、**地域コミュニティ構築**の強化を図る

⇒ SCB理論は地域コミュニティ構築のための理論である

③地域やコミュニティにおける多様な**つながり**や多様な地域活動を生まれやすくする

⇒ SCBではモノよりも**つながり**こそに価値があると考える。モノではなく、**つながりをブランディング**（可視化・拡散）することでブローカレスでのつながりやコミュニティ構築を可能にする

熊本市社会福祉協議会での職員研修

2019.7～

SCBによる地域共生社会の実現をテーマにした
SCB理論の職員研修会（勉強会）を実施

９０分×全５回

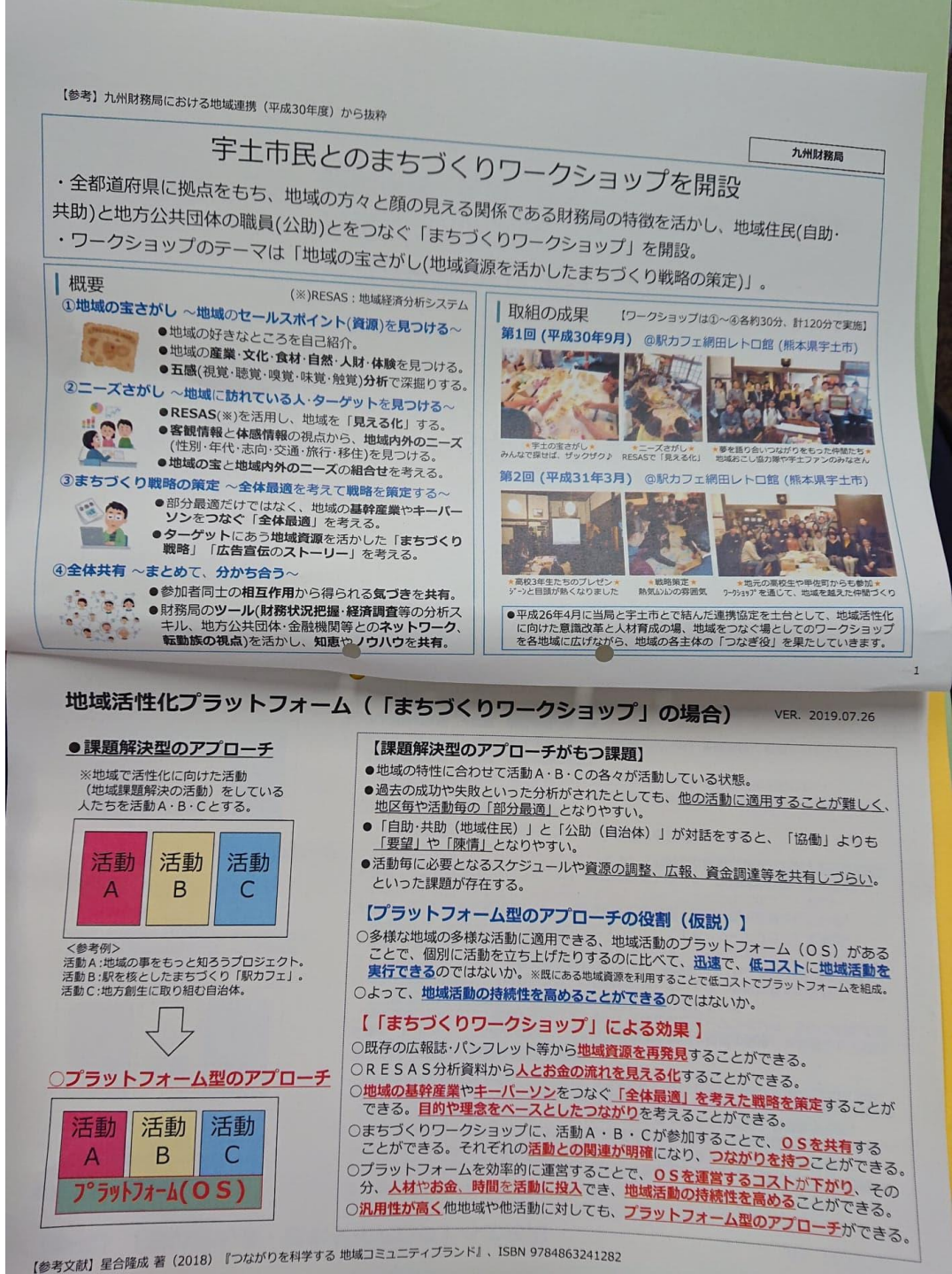
財務省九州財務局

九州財務局の地域連携の取り組みである「宇土市民とのまちづくりワークショップ」を**SCB理論を用いて検証・分析**

プラットフォーム化の効果を検証・分析

プラットフォーム化による見える化により迅速性、低コスト化、持続性に効果があることを財務局が左記資料等で報告

さらに、9月26日熊本市主催のセミナーに於いて、九州財務局が本分析結果を講演予定



【参考】九州財務局における地域連携（平成30年度）から抜粋

九州財務局

宇土市民とのまちづくりワークショップを開設

・全都道府県に拠点をもち、地域の方々と顔の見える関係である財務局の特徴を活かし、地域住民(自助・共助)と地方公共団体の職員(公助)とをつなぐ「まちづくりワークショップ」を開設。
・ワークショップのテーマは「地域の宝さがし(地域資源を活かしたまちづくり戦略の策定)」。

概要

(※)RESAS：地域経済分析システム

①地域の宝さがし ～地域のセールスポイント(資源)を見つける～
- 地域の好きなところを自己紹介。
- 地域の**産業**・**文化**・**食材**・**自然**・**人財**・**体験**を見つける。
- **五感**(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)**分析**で深掘りする。

②ニーズさがし ～地域に訪れている人・ターゲットを見つける～
- RESAS(※)を活用し、地域を「**見える化**」する。
- **客観情報**と**体感情報**の視点から、**地域内外のニーズ**(性別・年代・志向・交通・旅行・移住)を見つける。
- **地域の宝**と**地域内外のニーズ**の**組合せ**を考える。

③まちづくり戦略の策定 ～全体最適を考えて戦略を策定する～
- 部分最適だけではなく、地域の**基幹産業**や**キーパーソン**を**つなぐ**「**全体最適**」を考える。
- **ターゲット**にあう**地域資源**を活かした「**まちづくり戦略**」「**広告宣伝**の**ストーリー**」を考える。

④全体共有 ～まとめて、分かち合う～
- 参加者同士の**相互作用**から得られる**気づき**を**共有**。
- 財務局の**ツール**(**財務状況把握**・**経済調査**等の分析スキル、地方公共団体・金融機関等との**ネットワーク**、**転勤族の視点**)を活かし、**知恵**や**ノウハウ**を**共有**。

取組の成果

【ワークショップは①～④各約30分、計120分で実施】

第1回（平成30年9月） @駅カフェ網田レトロ館（熊本県宇土市）

＊宇土の宝さがし＊ みんなで探せば、ザックザク♪
＊ニーズさがし＊ RESASで「見える化」
＊夢を語り合いつながりをもった仲間たち＊ 地域おこし協力隊や宇土ファンのみなさん

第2回（平成31年3月） @駅カフェ網田レトロ館（熊本県宇土市）

＊高校3年生たちのプレゼン＊ ダーッと目頭が熱くなりました
＊戦略策定＊ 熱気ムンムンの雰囲気
＊地元の高校生や甲佐町からも参加＊ ワークショップを通じて、地域を越えた仲間づくり

- 平成26年4月に当局と宇土市とで結んだ連携協定を土台として、地域活性化に向けた意識改革と人材育成の場、地域をつなぐ場としてのワークショップを各地域に広げながら、地域の各主体の「つなぎ役」を果たしていきます。

1

地域活性化プラットフォーム（「まちづくりワークショップ」の場合）

VER. 2019.07.26

●課題解決型のアプローチ

※地域で活性化に向けた活動（地域課題解決の活動）をしている人たちを活動A・B・Cとする。

活動A　活動B　活動C

<参考例>
活動A：地域の事をもっと知ろうプロジェクト。
活動B：駅を核としたまちづくり「駅カフェ」。
活動C：地方創生に取り組む自治体。

○プラットフォーム型のアプローチ

活動A　活動B　活動C
プラットフォーム(OS)

【課題解決型のアプローチがもつ課題】
- 地域の特性に合わせて活動A・B・Cの各々が活動している状態。
- 過去の成功や失敗といった分析がされたとしても、他の活動に適用することが難しく、地区毎や活動毎の「部分最適」となりやすい。
- 「自助・共助（地域住民）」と「公助（自治体）」が対話をすると、「協働」よりも「要望」や「陳情」となりやすい。
- 活動毎に必要となるスケジュールや資源の調整、広報、資金調達等を共有しづらい。といった課題が存在する。

【プラットフォーム型のアプローチの役割（仮説）】

○多様な地域の多様な活動に適用できる、地域活動のプラットフォーム（OS）があることで、個別に活動を立ち上げたりするのに比べて、**迅速**で、**低コスト**に**地域活動を実行できる**のではないか。※既にある地域資源を利用することで低コストでプラットフォームを組成。
○よって、**地域活動の持続性を高めることができる**のではないか。

【「まちづくりワークショップ」による効果】

○既存の広報誌・パンフレット等から**地域資源を再発見**することができる。
○RESAS分析資料から**人とお金の流れを見える化**することができる。
○**地域の基幹産業**や**キーパーソン**をつなぐ**「全体最適」を考えた戦略を策定**することができる。**目的や理念をベースとしたつながり**を考えることができる。
○まちづくりワークショップに、活動A・B・Cが参加することで、**OSを共有**することができる。それぞれの**活動との関連が明確**になり、**つながりを持つ**ことができる。
○プラットフォームを効率的に運営することで、**OSを運営するコストが下がり**、その分、**人材**や**お金**、**時間**を**活動に投入**でき、**地域活動の持続性を高める**ことができる。
○**汎用性が高く**他地域や他活動に対しても、**プラットフォーム型のアプローチ**ができる。

【参考文献】星合隆成 著（2018）『つながりを科学する 地域コミュニティブランド』、ISBN 9784863241282

九州財務局

宇土市民とのまちづくりワークショップを開設

・全都道府県に拠点をもち、地域の方々と顔の見える関係である財務局の特徴を活かし、地域住民(自助・共助)と地方公共団体の職員(公助)とをつなぐ「まちづくりワークショップ」を開設。
・ワークショップのテーマは「地域の宝さがし(地域資源を活かしたまちづくり戦略の策定)」。

概要

(※)RESAS：地域経済分析システム

①地域の宝さがし ～地域のセールスポイント(資源)を見つける～

- 地域の好きなところを自己紹介。
- 地域の**産業・文化・食材・自然・人財・体験**を見つける。
- **五感**(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)**分析**で深掘りする。

②ニーズさがし ～地域に訪れている人・ターゲットを見つける～

- **RESAS**(※)を活用し、地域を「**見える化**」する。
- **客観情報**と**体感情報**の視点から、**地域内外のニーズ**(性別・年代・志向・交通・旅行・移住)を見つける。
- **地域の宝**と**地域内外のニーズ**の**組合せ**を考える。

③まちづくり戦略の策定 ～全体最適を考えて戦略を策定する～

- 部分最適だけではなく、地域の**基幹産業**や**キーパーソン**を**つなぐ**「**全体最適**」を考える。
- **ターゲット**にあう**地域資源**を活かした「**まちづくり戦略**」「**広告宣伝**の**ストーリー**」を考える。

④全体共有 ～まとめて、分かち合う～

- 参加者同士の**相互作用**から得られる**気づき**を**共有**。
- 財務局の**ツール**(**財務状況把握・経済調査**等の分析スキル、地方公共団体・金融機関等との**ネットワーク**、**転勤族の視点**)を活かし、**知恵**や**ノウハウ**を**共有**。

取組の成果

【ワークショップは①～④各約30分、計120分で実施】

第1回 (平成30年9月) @駅カフェ網田レトロ館 (熊本県宇土市)

宇土の宝さがし
みんなで探せば、ザックザク♪

ニーズさがし
RESASで「見える化」

夢を語り合いつながりをもった仲間たち
地域おこし協力隊や宇土ファンのみなさん

第2回 (平成31年3月) @駅カフェ網田レトロ館 (熊本県宇土市)

高校3年生たちのプレゼン
ｼﾞｰﾝっと目頭が熱くなりました

戦略策定
熱気ﾑﾝﾝの雰囲気

地元の高校生や甲佐町からも参加
ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟを通して、地域を越えた仲間づくり

- 平成26年4月に当局と宇土市とで結んだ連携協定を土台として、地域活性化に向けた意識改革と人材育成の場、地域をつなぐ場としてのワークショップを各地域に広げながら、地域の各主体の「つなぎ役」を果たしていきます。

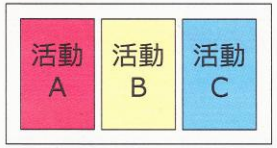
7

地域活性化プラットフォーム（「まちづくりワークショップ」の場合）

VER. 2019.09.17

●課題解決型のアプローチ

※地域で活性化に向けた活動（地域課題解決の活動）をしている人たちを活動A・B・Cとする。



<参考例>
活動A：地域の事をもっと知ろうプロジェクト。
活動B：駅を核としたまちづくり「駅カフェ」。
活動C：地方創生に取り組む自治体。

○プラットフォーム型のアプローチ

【課題解決型のアプローチがもつ課題】

- 地域の特性に合わせて活動A・B・Cの各々のグループが活動している状態。
- 活動の成功や失敗が分析がされても、知見が共有されなければ他の活動に活かせず、地区毎や活動毎の「部分最適」となりやすい。
- 「自助・共助（地域住民）」と「公助（自治体）」が対話をすると、「協働」よりも「要望」や「陳情」となりやすい。
- 活動毎に必要となるスケジュールや資源の調整、広報、資金調達等を共有しづらい。

といった課題が存在する。

【プラットフォーム型のアプローチの役割（仮説）】

○多様な地域の多様な活動に適用できる、地域活動のプラットフォーム（ＯＳ）があることで、個別に活動を立ち上げたりするのに比べて、**迅速**で、**低コスト**に**地域活動を実行できる**のではないか。※既にある地域資源を利用することで低コストでプラットフォームを組成。
○よって、**地域活動の持続性を高めることができる**のではないか。

【「まちづくりワークショップ」による効果】

○既存の広報誌・パンフレット等から**地域資源を再発見**することができる。
○ＲＥＳＡＳ分析資料から**人とお金の流れ・産業構造を見える化**することができる。
○**地域の基幹産業**や**キーパーソン**をつなぐ**「全体最適」を考えた戦略を策定**することができる。**目的や理念をベースとしたつながり**を考えることができる。
○まちづくりワークショップに、活動Ａ・Ｂ・Ｃが参加することで、**ＯＳを共有**することができる。それぞれの**活動との関連が明確**になり、**つながりを持つ**ことができる。
○プラットフォームを効率的に運営することで、**ＯＳを運営するコストが下がり**、その分、**人材**や**お金**、**時間**を**活動に投入**でき、**地域活動の持続性を高める**ことができる。
○**汎用性が高く**他地域や他活動に対しても、**プラットフォーム型のアプローチ**ができる。

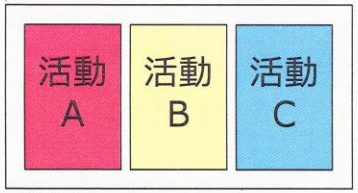
【参考文献】星合隆成 著（2018）『つながりを科学する 地域コミュニティブランド』、ISBN 9784863241282

（参考）「ちいきん会・熊本ダイアログ」への応用

VER. 2019.09.17

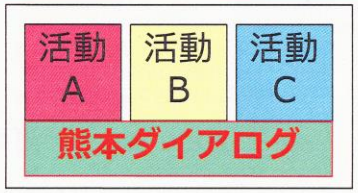
●課題解決型のアプローチ

※地域で活性化に向けた活動（地域課題解決の活動）をしている人たちを活動A・B・Cとする。



<参考例>
活動A：地域経済の活性化に取り組む自治体。
活動B：地域経済の活性化に取り組む金融機関。
活動C：地域経済の活性化に取り組む支援機関等。

○プラットフォーム型のアプローチ



1．ちいきん会・熊本ダイアログとは

- 金融庁の課題解決支援チームを中心に、熊本の金融機関や公務員有志、趣旨に賛同する熱意ある有志が集うオフサイトミーティング。**<熊本の地域金融活動のプラットフォーム>**
- 今は、起業・創業支援をテーマに活動している。

※第１回のダイアログにおいて、当面のテーマを「起業・創業支援」に設定したため、起業・創業を支援する熊本県信用保証協会や熊本県よろず支援拠点、起業家等をメンバーに加え、具体化に向けた対話を実施。

2．熊本の起業・創業の現状と課題

➤**強み**：熊本県は、「復興の原動力となる**新たな事業の創出**と**起業の促進**」を施策として掲げ、創業支援プログラム「熊本テックプランター」を核としたオープンイノベーション機能の確立（**次世代理系人材育成～メガベンチャー支援**）に取り組んでいる。

➤**弱み**：教育の現場で、「起業家教育」の機運が高まっているが、全国や熊本の開業率は低調な水準で推移している。（熊本県の開業率は5.6%、廃業率は3.1%。平成28年度実績値）

➤**機会**：起業家同士の交流の場や先輩起業家と起業希望者との交流の場は少ない。熊本県信用保証協会は、全国的に珍しい起業家のコニュニティ「くまもとシーズクラブ」を開設。

➤**機会**：**リアルの世界を体験**している**先輩起業家との対話・意見交換**を必要としている。しかし、各機関や業態超えて先輩起業家を活用（融通）できる環境が整っていない。

➤**脅威**：各支援機関や団体のコミュニティやコワーキングスペースが複数存在しているが、類似している場合は「競争」となる恐れがある。**「共創」となるバランスやシナジーが必要**。

3．熊本ダイアログの目的・メンバーが目指すところ

①情報連携支援　<起業・創業の苗床>

➤起業促進や起業後のフォローのために、起業経験者を重要な資産・キーパーソンととらえ、金融機関・支援機関等の業態を越えて、先輩起業家等の情報共有の強化を図りたい。

②教育連携支援　<起業・創業の種まき期>

➤若者の県内定着、活性化を目指すために、「起業マインド」を就学時に意識させたい。

③人材連携支援　<起業・創業の芽ぶき期>

➤「起業マインド」を定着させるために、起業したい人のニーズに応じたトークイベントやワークショップを開催したい。

国交省道の駅ネットワーク構想

個から面へ

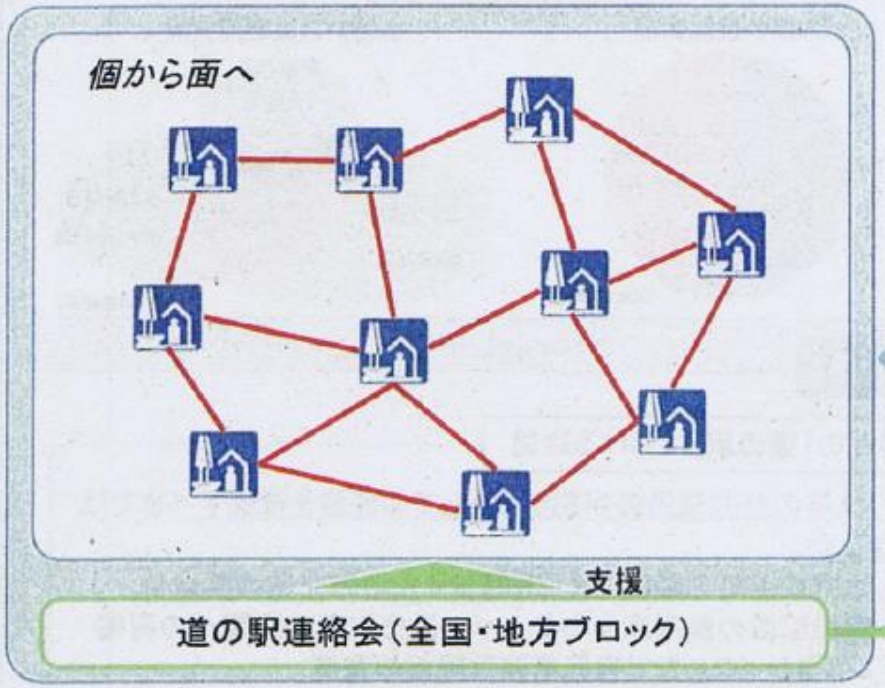
今後の取組の基本的な方向性（案）

第4回　新「道の駅」のあり方検討会
（R1.5.10）中間整理（案）より抜粋

基本的な方向性

- 各道の駅の設置者や運営者による自由な発想による多様な取組を基本としつつ、地域の活性化や安全・安心等の実現のため、全国に展開している強みを活かし、「個から面（ネットワーク）」としての取組を更に強化すべきではないか。
- 地方創生を加速するため、民間の地域活性化等の新たな技術・アイデアの活用や、風景街道や道守など道路関係団体との連携による道路サービスの魅力の向上など、多様な主体との「新たな連携」を促進すべきではないか。

【ネットワークの更なる強化】



全国や
各地域

連携

支援

【多様な主体との新たな連携】

- 民間企業
  （新たな技術・アイデアの活用等）
- 道路関係団体：風景街道、道守
  （エリアとしての道路サービスの魅力の向上等）
- 大学・高専等
  （若者の実習交流の場、人材育成等）
- 防災に関する関係機関（警察、消防、物流事業者等）
  （災害時の情報共有・発信、相互支援）
- DMO（Destination Marketing/Management Organization）※
  （観光まちづくり）
- 交通事業者・郵便・農協・社会福祉協議会等
  （交通結節機能の強化、中山間地での生活や移動手段の確保等）
- 海外
  （外国人旅行者への発信、道の駅の海外展開等）

等

国交省・熊本県サポート事業
九州道の駅ネットワークからの受託事業

2019.7～

「全国道の駅ネットワーク構築事業（座長：星合崇城大学教授）」を九州道の駅ネットワーク（国交省・熊本県サポート事業）より受託し、検証を開始（2020.3答申提出予定）

総務省「地域ICTクラブ」地域実証事業を受託

総務省 MIC Ministry of Internal Affairs and Communications

ご意見・ご提案　ENGLISH(TOP)　ENGLISH(ICT POLICY)　アクセシビリティ閲覧支援ツール　文字

Google カスタム検索

総務省の紹介 | 広報・報道 | 政策 | 組織案内 | 所管法令 | 予算・決算 | 申請・手続

総務省トップ > 広報・報道 > 報道資料一覧 > 「地域ICTクラブ」地域実証事業に係る採択候補の決定

報道資料

令和元年7月10日

「地域ICTクラブ」地域実証事業に係る採択候補の決定

総務省では、「地域ICTクラブ普及推進事業」に係る企画案の公募を行い、外部有識者による評価会の結果を踏まえ、採択候補(17件)を決定しました。
また、「地域ICTクラブの設立・運営に関するガイドライン(初版)」を策定しました。

【四国】 高知県	高知ICTクラブ推進協議会 （高知みらい科学館（高知市教育委員会））	(4)(5)	1.高知県 2.科学館と高専との連携を中心とした新しいIoT人材育成モデル
【九州】 熊本県	熊本市防災ICT人材育成協議会 （一般社団法人SCBラボ）	(4)(5) (9)	1.熊本市 2.「防災」をキーワードに地域の力を結集する地域課題解決型モデル
【沖縄】 沖縄県	おきなわICTクラブ運営協議会 （一般社団法人おきなわジュニア科学クラブ）	(2)(3) (10)	1.沖縄市、宜野湾市 2.こどもの居場所づくりと連携し、STEM教育を展開する地域ICTクラブモデル

SCBのプロジェクト・アクティビティ

全国５０のプロジェクトでSCB理論を活用

Social Community Brand

- 財務省、農水省、国交省などの省庁
- 熊本市社会福祉協議会(厚生省)などの社会福祉機関（社協事業を受託）
- 総務省Fed4プロジェクト/総務省地域ICTクラブ事業受託
- 群馬県、熊本県、熊本市、熊本市北区などの地方自治体
- SCB放送局、J:COM、FM桐生、シティFMなどのメディア企業
- 熊本信用金庫などの金融機関
- 九州道の駅ネットワーク、道の駅阿蘇とのイノベーションサテライト運営
- ソフトバンク、マイナビなどのICT企業
- イノベーションアカデミーの設立、ソフトバンク、The Company、FS社
- 大学などの教育機関（全学部講義/新コース/IoT・AIセンター開設/他大学）
- 高校との連携（熊本西高校）
- マイナビとの教材・システム開発と高校での運用

SCB理論の概要

- 疲弊した地域の活性化・地域創生

地域にイノベーションを創発する必要

地域イノベーション

- 「技術革新」と「新結合」の２つ

地域にはイノベーション「新結合」が有効

地域イノベーションに有効　　技術革新と新結合の両輪

- 「新結合」には「**つながり**」が大切

地域資源のつながりを科学

- 大切な「**つながり**」を科学することが重要

イベント・講演と理論との両輪　　直観・経験と理論との両輪

- そのための理論が**SCB理論**(地域コミュニティブランド)

持続性、再現性、汎用性の高いつながりを低コストで実現　　世界初の理論

SCB理論（概要編）

http://conceptlab.jp/doc/SCB_conect.m4v

５分間で分かる
「地域コミュニティブランド：SCB」

「つながる」の本質を考える

崇城大学SCB放送局
2015.5

SCBの基本的なアイデア１（p.6, p.14）

2000年代に一世風靡したP2Pを
地域活性化に活用しようとの試み

P2Pを人的ネットワーク形成・
地域コミュニティ構築に活用

SCBの定義（p.16）

　地域資源を自律分散協調の最小単位であるピアとして仮想化し、IF（インタフェース）を公開することにより、ピア同士をブローカレスに繋げることで、地域活性化のためのPF（プラットフォーム）を構築する

地域活性化のためのPF構築をP2Pにより実現することが目的
地域資源のつながりを科学

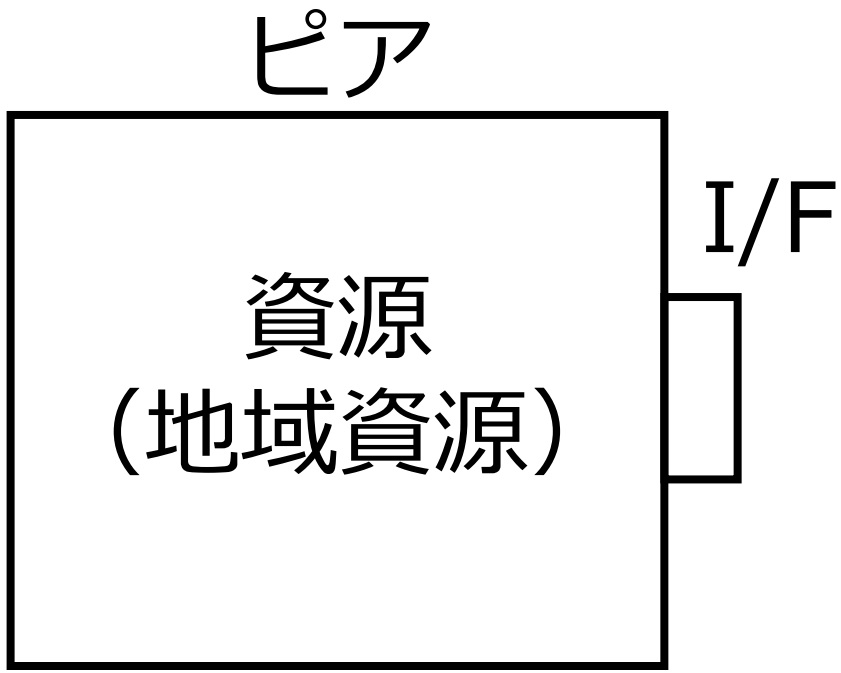
つながりを科学する

仮想化	ピア設計（資源のカプセル化）
体系化	ピア同士のつなげ方
可視化	ピア同士のつながりを公開

新結合を創発するためには「つながり」を科学することが重要

仮想化

資源（地域資源）そのものを隠ぺいし、インターフェースのみを外部に公開する「ピア」を設計すること

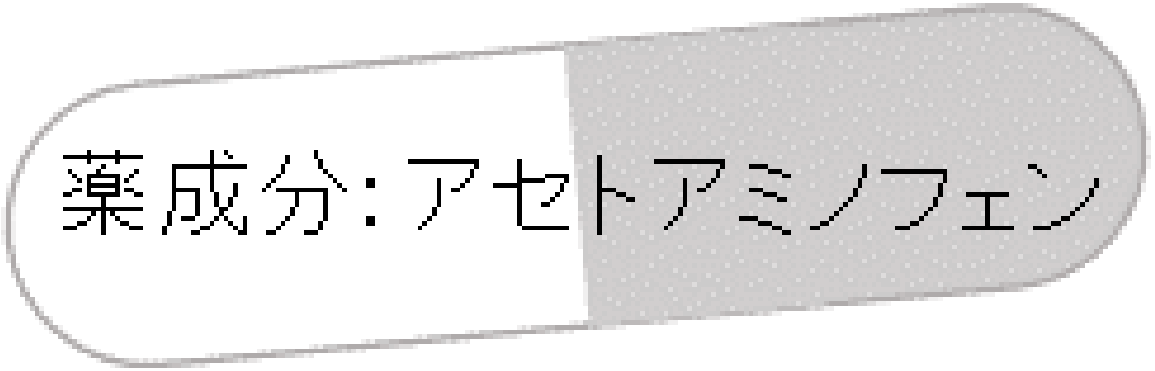


I/F：インタフェース

仮想化の例：薬（p.102）

隠ぺい　カプセル化

インタフェース



効能：解熱
用法：１日1カプセル

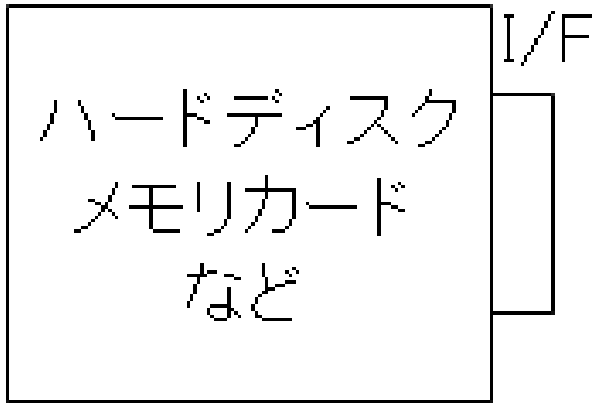
薬剤のカプセル化とインタフェース

仮想化の例：ファイル（p.103）

隠ぺい

カプセル化

ファイル(OS)



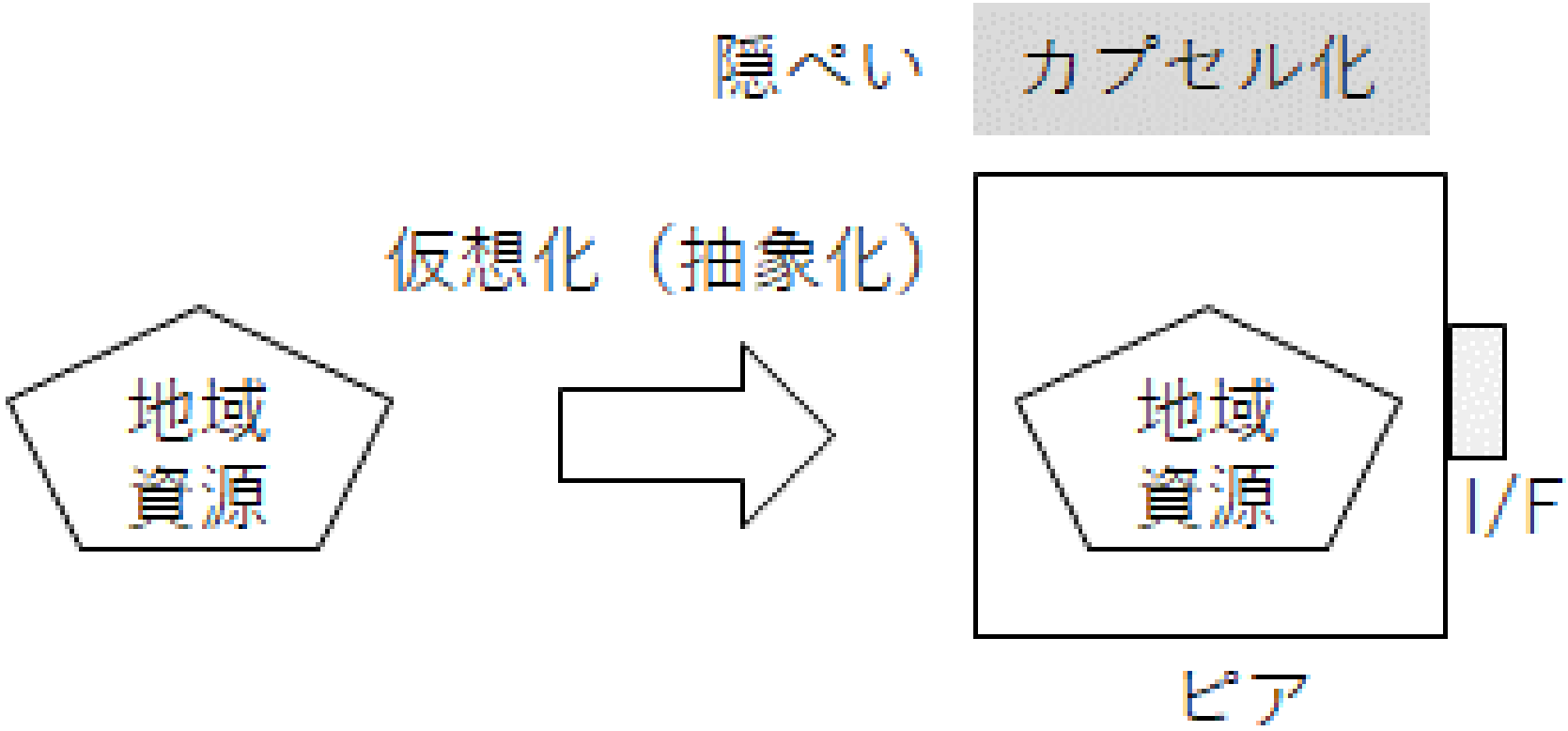
インタフェース(I/F)

ファイル作成
ファイル削除
データ書き込み
データ読み出し

ハードウエア資源のカプセル化とインタフェース(ファイル)

OSの目的：仮想化と標準化（部品化とＰＦ化）

ピア設計：カプセル化とIF公開（p.66）



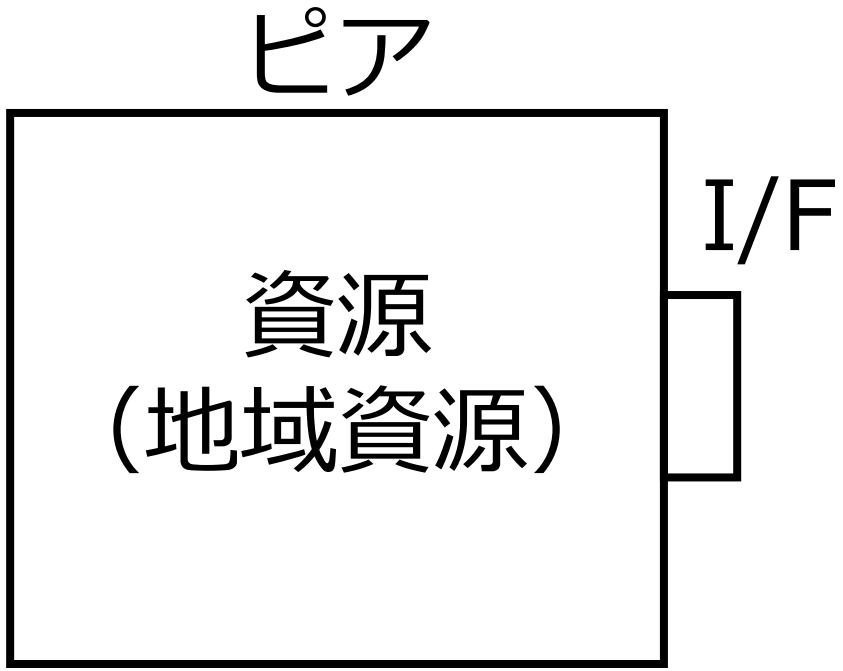
IFを5タイプに分類
- 機能
- モノ
- 活動
- 概念（推奨）

- つながり

地域資源同士は繋がらない　ピア同士は繋がる　繋げるレイヤーを一致

ピアのインタフェース

地域資源をピアとして仮想化することにより、地域資源が外部に公開するインタフェースを5種類に分類できる



- ▣機能
- ▣モノ
- ▣活動
- ▣概念・理論・ビジョン
- ▣つながり

資源の本質を追求する・見極めるための設計図を作成

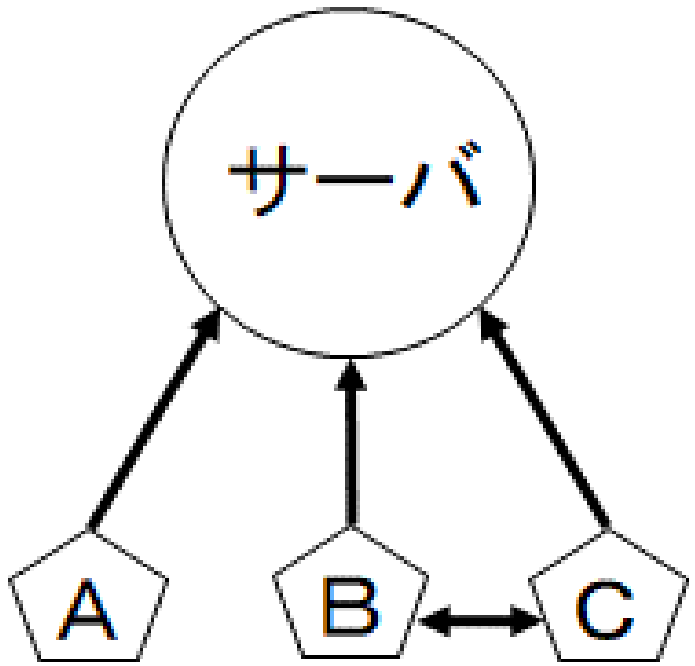
体系化　ピア同士のつなげ方を決めること

地域資源をピアとして仮想化することにより、ピア同士のつなげ方を６通りに分類できる

- ▣サーバ
- ▣C/S(図書館タイプ)
- ▣C/S(検索サービスタイプ)
- ▣ハイブリッド
- ▣ピュア
- ▣セミピュア

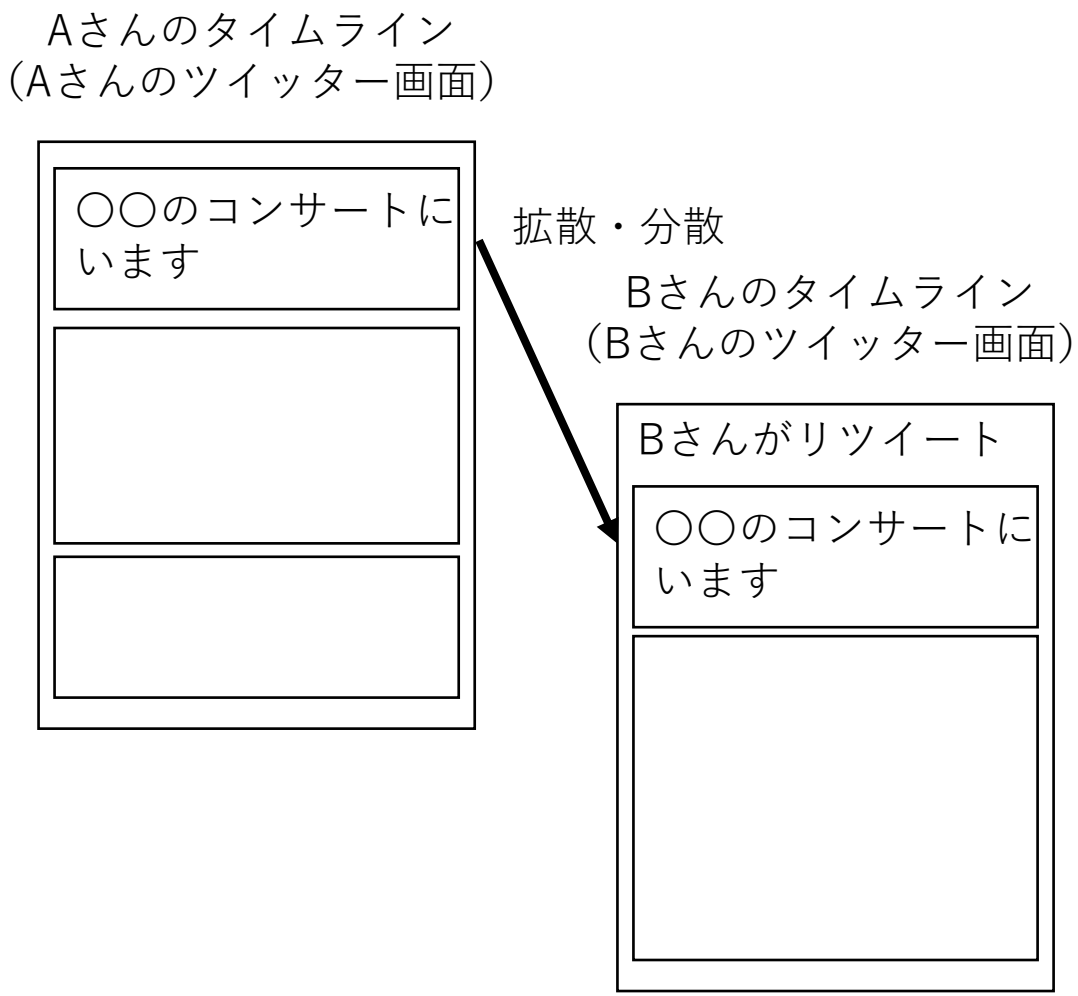
▣芋づる式（同時参加モデル）

ツイッターのリツイートはハイブリッド型（p.104）



クライアント

ハイブリッドモデル



Napster:音楽ファイルの利用者が音楽ファイルの提供者になる（サーバント）

地域資源のつながりを可視化（p.34）

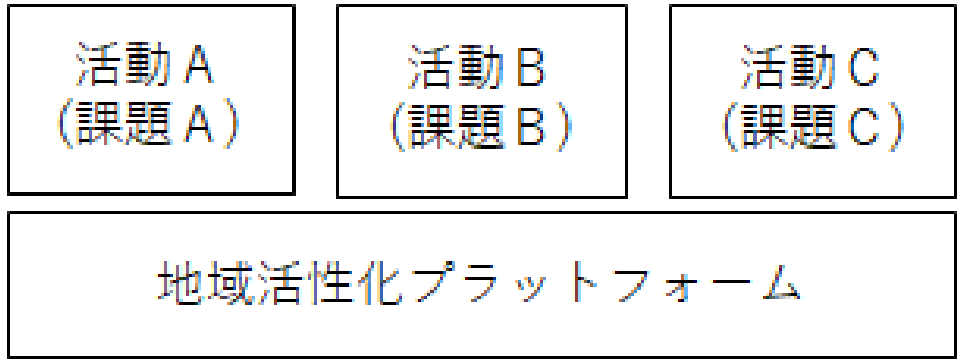
可視化（PF化）

つながりを可視化
つながりをPF化
つながりにこそ価値がある

地域活性化プラットフォーム（p.29）

プラットフォーム化：水平型

地域活性化アプリケーション



・プラットフォーム上に個々の活動や課題を展開
・特定の活動や課題に関する部分のみを課題解決型で解決
・プラットフォームが地域の課題を解決する（プラットフォーム上で地域の活動を展開する）

地域活性化プラットフォームを用いた地域活動

活動の低コスト化

課題解決の時間削減

重複した活動の抑止

活動の品質が向上

活動間のノウハウ共有が容易

活動間の連携が容易

新たな発火・シナジー効果

フィードバック先確保（可視化効果）

SCBラボ・SCB理論に関する情報

つながりを科学する
つながりを科学的に考察することの大切さを理解する

ブローカレス理論（P2P）

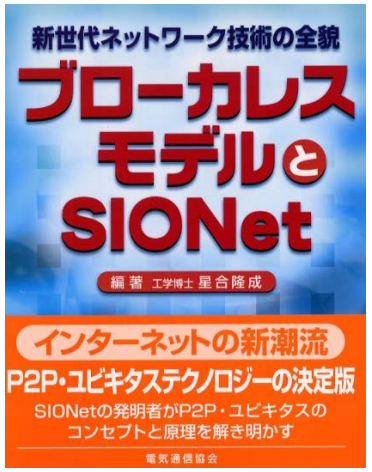
1

・1998年に提唱された世界初のP2Pネットワーク理論
・ボトムアップでフラットなコミュニティを低コストで構築するための理論

P2Pの歴史

1998年	ブローカレス理論の提唱、SIONetの登場
2000年	ファイル交換サービスが社会現象
2004年	スカイプ(Sky P2P)、SNSの登場
2004年	NTTフレッツ光:ひかりグリッドの登場
2009年	仮想通貨の分野でブロックチェーンが登場
2011年	地域コミュニティブランド(SCB)の登場
2016年	IoT･フォグコンピューティングの分野でブロックチェーンを活用
2017年	地域活性化プラットフォームの構築にブロックチェーンを活用

【コンピュータ資源～地域資源･IoT資源の繋がりへ】



SCB理論（地域コミュニティブランド）

・2011年に提唱された地域活性化、地域創生のための理論
・P2P（ブローカレス理論）を地域活性化、イノベーション創発に活用
・地域資源をブローカレスに繋げることで、地域課題の解決や地域活性化プラットフォームを構築する

2

SCBプロジェクト

3

・熊本市競輪活性化委員会　http://kumamotokeirin.scbrand.info/
・SCB放送局
https://www.facebook.com/watch/?v=947987471890776

SCBプロジェクト

3

・道の駅阿蘇（国土交通省）
・熊本市社会福祉協議会（厚生省）
・総務省Fed４プロジェクト
・総務省地域ICTクラブ
・熊本市地域経済活性化委員会
・イノベーションアカデミー(ソフトバンク)
・財務省九州財務局
・農水省など全国で50のプロジェクト

SCBの推進組織

4

・(一社)SCBラボ
https://www.scblab.jp/
・(一社)ジョブラボぐんま
https://joblabgunma.themedia.jp/
・コンセプトラボ株式会社
http://conceptlab.jp/

記事・関連サイト

5

https://ja.wikipedia.org/wiki/地域コミュニティブランド
http://conceptlab.jp/yahoonewsseihonn.pdf
http://conceptlab.jp/doc/U-17kakou.pdf
http://conceptlab.jp/doc/SCB_conect.m4v

6

SCBのPV

P2P（ブローカレス理論）提唱者
SCB理論提唱者

星合隆成　工学博士、崇城大学情報学部教授(2012～)、早稲田大学招聘研究員。コンセプトラボ（株）取締役。一般社団法人ジョブラボぐんま監事。一般社団法人SCBラボ所長・理事、イノベーションアカデミー校長、元NTT研究所主幹研究員・参与。NTT在職中（1986～2012）に、ベルコミュニケーション研究所客員研究員（米国留学）、群馬大学客員教授、日本大学非常勤講師。総務省ICタグと自律分散協調ネットワーク調査検討会委員、経済産業省次世代型新IT環境研究会委員、群馬県「地域における通信と放送の融合に関する委員会」座長代理、経済産業省「まちげんきフェス」スペシャリスト、総務省プロジェクトFed4IoT諮問委員会委員、（社）電子情報通信学会代議員・運営委員・通信ソサイアティ幹事などを歴任。（財）日本情報処理開発協会・（社）電子情報技術産業協会・（財）デジタルコンテンツ協会などの特任講師などを務める。世界初のP2Pネットワークであるブローカレス理論・SIONet（シオネット）の提唱者として知られている。現在は、P2Pを地域活性化に活用する「地域コミュニティブランド」の研究を進めている。主な著書に、『ブローカレスモデルとSIONet』（オーム社,2003）、『つながりを科学する　地域コミュニティブランド』（木楽舎, 2018）など。